

季刊「悠久」

〈悠久刊行の辞〉

神道は日本民族悠久の大道である。悠久の大道とは、思考の原則、国の体質の骨格をなす生き方といひ替えてもよい。

終戦直後、神道の総合誌を発刊しようと、当時主として三十歳代の人々が同人となり、動転している世の中に、不易の常道のあることを確信して、「悠久」と名付けたのであった。創刊号は昭和二十三年一月五日に出た。鶴岡八幡宮宮司座田司氏先生の配慮であった。

時勢を考慮してか創刊の詞はなく、若い者の裁量に任せられていた。編輯後記に「自らをありのままに語ることで、自由の日の神道は広く豊かで、明るく楽しいものである」とも、「日本に於ける文化の基盤でもあることを自ら語る」のだとも述べている。

時代の進運と国民の自覚とは幸いに今日世界の中に新しい地歩を築きつつあり、その根源を求めて、内外からいわゆる「日本人論」が起り、その道を探る動きが活発になっているように思う。

日本民族の歴史は遙かに古く、神社の信仰は国民の生活と共に久しく、「真摯な反省を重ねた八年間ではあったが、表皮から擲揄されたり、或は秩序への反感から、反政治的な故意から、常に冷たい眼を向けられてゐる。それはある熱意をこめて行はれていることを思ふと、神社神道の側からもこれ以上の情熱をたぎらせねばならない」（休刊の詞）実情は今も変わらず、自覚をもった発言の場が今日でもなお望まれていると思う。率先して御指導いただいた折口信夫先生の齢に接している当時の同人らは、寄りよりこの必要性を憶い、後進の教導を深めながら、世継ぎを興して行く方策を語り合った。また国民が神社に寄せた信仰の証しが伝統であり慣習である事実、すなわち悠久の道を、学問としても理論としても後の世に引き継ぐ責務を、「太平の代」を拓きつつある今日こそ当為として務めなければならぬと考えた。

悠久に生きる道は、この一世代の経過の中で実際に根幹として存在した事実を認識する新しい同人が、再び「悠久」を刊行しようとするわけである。

〈定期購読のご案内〉

定期購読ご希望の方は、郵便局の振替用紙にて下記「悠久事務局」へお申し込み下さい。

年間購読料 2,700円（4冊分・送料込）

「悠久事務局」

〒248-8588 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-31 鶴岡八幡宮社務所内

TEL 0467-22-0315

《郵便振替》 横浜 00260-8-9654 悠久事務局

〈バックナンバー購入のご案内〉

バックナンバーご希望の方は希望の号をご記入の上、郵便振替にて上記事務局までお申し込み下さい。

〔定価〕 1～12号 480円

13号～ 680円

〈内容一覧〉※のある号は在庫切れ

<p>1号 ※</p>	<p>特集：神話と祭祀 《口絵》荏柄天神（三山進）・海の祭り（諸田森二）《巻頭言》悠久（白井永二）《座談会》神々の思想（近藤喜博・臼田甚五郎・小松和彦・白井永二）《論文》肥の河祭祀と神話（菅野雅雄）・天の香具山（尾崎暢殃）・土地に生きた神話（秋本吉徳）・物語と祭祀（藤井貞和）・神話と祭り（三橋健）《信仰を語る》祭りと神社（伊達巽）《和歌》三輪山にのぼりて（岡野弘彦）《俳句》とほつあふみ（能村登四郎）《随筆》折口信夫の思い出（飯島総葉）・出会い（壬生台舜）・江戸の祭り（興津要）《八幡宮紹介》亀田八幡宮（北海道函館市）他 昭和55年4月</p>
<p>2号 ※</p>	<p>特集：巫女 《口絵》弁財天坐像（三橋健）・海の祭り・船の祭り（諸田森二）《巻頭言》四角い土俵（白井永二）《座談会》日本のシャーマニズム（宮田登・佐々木宏幹・倉塚暉子）《論文》シャーマニズムの展望（桜井徳太郎）・琉球の巫女の儀礼（小島瓊禮）・斎宮（渡辺寛）・東北の巫女（山折哲雄）・韓国の巫女（依田千百子）《信仰を語る》私の人生体験（吉田智朗）《和歌》昭和の大戦秘抄（高崎正秀）《俳句》方壺集（楠本憲吉）《随筆》ユーザー本位の宗教（草柳大蔵）・富士山銀婚記念登拝とスケッチ（佐藤多持）*式内社の起源（菱沼勇）《八幡宮紹介》船引八幡神社（宮崎県清武町）他 昭和55年7月</p>
<p>3号 残部僅少</p>	<p>特集：八幡信仰 《口絵》僧形八幡神像と弘法大師像（大三輪龍彦）・海の祭り（諸田森二）《巻頭言》月光の島（白井永二）《座談会》八幡信仰の展開（中野幡能・西田長男）《論文》八幡信仰の創立（二宮正彦）・宇佐八幡宮の女神（三木彊）・石清水八幡宮の縁起（新城敏男）・八幡信仰と武士（安井久善）《信仰を語る》民族固有の信仰＝神道（小野迪夫）《短歌》み祖のころ（太田青丘）《俳句》蟲の秋（石塚友二）《随筆》長生きの悲しみ（黒田初子）・飯田町の頃（吉井良尚）・「古事記」に想う（高木宗監）・八幡遺聞（渡辺三男）*「つきたち」考（川上順子）《八幡宮紹介》高知八幡宮（高知県高知市）他 昭和55年10月</p>
<p>4号 ※</p>	<p>特集：年中行事 《口絵》菩薩面と舞楽面（山田泰弘）・海の祭り（諸田森二）《巻頭言》角海家（白井永二）《座談会》正月とはなにか（直江廣治・坪井洋文・臼田甚五郎）《論文》「晴」の日（牧田茂）・新しい生命の誕生（竹中信常）・禊と祓と（鈴鹿千代乃）・収穫の祭り（西垣晴次）・神が山に帰る（西川順土）・祭りの種々相（土岐昌訓）《信仰を語る》神様との触れ合い（田島仲康）《短歌》ふるさと一伊勢（生方たつゑ）《俳句》初冬（細見綾子）《随筆》万里横行のかに（酒井恒）・氏神さま（瀬川清子）・私設交通整理（吉川義雄）*鶴岡八幡宮旧蔵の元版一切経（是澤恭三）《八幡宮紹介》平野八幡神社（石川県穴水町）他 昭和56年1月</p>
<p>5号 ※</p>	<p>特集：日本の花 《口絵》籬菊螺鈿蒔絵硯箱（三浦勝男）・海の祭り（諸田森二）《座談会》桜（岡野弘彦・林弥栄・藺田稔）《論文》花の文化史（斎藤正二）・花の民俗（桜井満）・祭と花（萩原龍夫）・仏と花（金岡秀友）いけばなの原像（北條明直）《随想》衣食足って礼節を忘れる（坂本太郎）・雑稿二話（宮尾しげを）・雪国の女（堀江秀男）・戸越八幡（朝倉治彦）・祖父運久を憶う（後藤俊太郎）《信仰を語る》安心立命（篠田康雄）《巷の生き神さま》石井岩重《短歌》星夜往来（葛原妙子）《俳句》後庭花（石原八束）《火の島の神々》新島・式根島（三橋健）《寄稿》増穂大和と妻和泉（下條正男）《八幡宮紹介》葛飾八幡宮（千葉県市川市）他 昭和56年4月</p>
<p>6号 ※</p>	<p>特集：日本の食物 《口絵》丹塗り磨研大型筒形土器（相山林継）・海の祭り（諸田森二）《座談会》神と仏と食べもの（沼部春友・藤井正雄・西島一郎）《論文》食物の神々（松前健）・神饌（小野和輝）・古代と米（大塚滋）・副食としての肉食・菜食（鯖田豊之）《随想》日本列島ドンゾマリ文化論（室伏哲郎）・鮎の古い神事（矢野憲一）・西田長男先生の教え（吉井貞俊）手打ちそばの旅（塩月真）・民俗芸能の国際交流（加藤隆久）・お多福（村主匡左）《信仰を語る》守られて（高澤信一郎）《巷の生き神さま》池田光如《短歌》称名（前登志夫）《俳句》牡丹（星野立子）《火の島の神々》伊豆大島（土岐昌訓）《日本のユートピア》北へ行くもの（阿部正路）《寄稿》旅へのころ（近藤喜博）・九九の歴史（須賀源蔵）《八幡宮紹介》心清水八幡神社（福島県会津坂下町）他 昭和56年7月</p>

7号 ※	<p>特集：日本の住い</p> <p>《口絵》唯一神明造り（森恒保）・海の祭り（諸田森二）《座談会》神々のすまい（伊藤ていじ・川添登・本田総一郎）《論文》神社建築について（福山敏男）・古代の住居（佐野大和）・日本の家（笠井昌昭）・日本の民家（小林梅次）・風土と住居（加倉井昭夫）《随筆》タマゴについて（葉山修平）・太鼓判をおす（本阿弥宗景）・主婦の勉強会（刈田雅子）・女舞（神崎ひで貴）八幡様と鳩（大藤時彦）《信仰を語る》老骨の花（千種宣夫）《巷の生き神さま》鹿島赫光《短歌》石の仏（近藤芳美）《俳句》石斧（佐藤鬼房）《日本のユートピア2》空をゆくもの（阿部正路）《寄稿》古代東国絹の道（野上尊博）《八幡宮紹介》鷲原八幡宮（島根県津和野町）他 昭和56年10月</p>
8号 残部僅少	<p>特集：日本の着物</p> <p>《口絵》御神服（鈴木敬三）・海の祭り（諸田森二）《座談会》十二単（金田元彦・高田俊男・栗原寿未子）《論文》罪の衣（三橋健）・宮中装束（村井不二子）・民間の紡織技術（芳井敬郎）・現代に生きる和服（山中典士）《随想》カミ・ホトケ・ゴッド（田中卓）・異端の民俗（鎌田久子）・嘉峪関に立って（今井ふじ子）・敬語と日本精神（伊吹一）・伝承の不思議、奥吉野の謎（上総英郎）《信仰を語る》真実を求めて（新垣泰由）《短歌》木曾路（窪田章一郎）《俳句》秋（大野林火）《日本のユートピア3》海をゆくもの（阿部正路）《寄稿》絵馬にみる賀茂行幸（奥出賢治）＊「生産性の船」乗船記（落合偉洲）《八幡宮紹介》誕生八幡神社（岐阜県美濃市）他 昭和57年1月</p>
9号 残部僅少	<p>特集：宗教音楽</p> <p>《口絵》楽器二種（小坂武義）・春の祭り（宇野正人）《座談会》祭と音楽（西角井正大・黛敏郎・多忠麿）《論文》宗教音楽の発生（野村良雄）・神楽歌（志田延義）・雅楽（吉川英史）・音の図像学（木戸敏郎）・キリシタンと音楽（H・チースリク）《随想》日本古代史の再認識を（木村東一郎）・昭和前期神道学界の出版物（岸本芳雄）・カラオケ旋風（牟田悌三）・祭と神様と舞と（西山村光寿斎）・湯津カツラ木（石井良介）《日本・日本人》日本のこころ（森田康之助）《信仰を語る》果しなき模索（松宮順）《短歌》宇治（田中順二）《俳句》わが一騎（中島斌雄）《日本のユートピア4》山へ行くもの（阿部正路）《寄稿》真字本曾我物語怨親平等（天野文雄）＊花に寄せる（近藤喜博）《八幡宮紹介》雪ヶ谷八幡神社（東京都大田区）他 昭和57年4月</p>
10号 ※	<p>特集：神道文学</p> <p>《口絵》箱根権現縁起絵巻（三橋健）・夏の祭（宇野正人）《座談会》神々の文学（川村二郎・白田甚五郎）《論文》神のお告げと源氏物語須磨・明石巻（三谷榮一）・中世の寺社縁起（福田晃）・近世文芸と神道思想（内野吾郎）・近代文学にみる神道的なるもの（永藤武）・海尊・清悦・八百比丘尼（野村純一）《随想》輪廻転生と甦える生命（平岩昌利）・濁と毒（阿蘇惟友）・天子神霊と三種の神器（瀧川政次郎）・鎌倉と甲冑武具（笹間良彦）・謎の扇への推理（李家正文）《日本・日本人》一外国人の見た日本と日本人と日本人論（ヤン・スィングドー）《信仰を語る》四季の中の日本と私（福田義文）《短歌》愛宕山（国崎望久太郎）《俳句》桜（津田清子）《日本のユートピア5》水をゆくもの（阿部正路）《寄稿》安房の神々（島津晴久）《八幡宮紹介》今戸神社（東京都台東区）他 昭和57年7月</p>
11号 残部僅少	<p>特集：昭和137冊の本</p> <p>《口絵》熊野那智社参曼茶羅（西牟田崇生）・秋の祭（宇野正人）《座談会》古典の周辺（谷沢永一・ドナルド・キーン）《論文》昭和百三十七冊の本（井村哲夫・小野迪夫・村山修一他47名）《随想》序文の功德（田邊正男）・茶書・安土桃山から江戸期へ（八重柏宗萱）・夢声老の詫状（内藤幸政）・円覚開山八幡迎請の話（井上禪定）・手紙は人（福田義文）《信仰を語る》信念一筋の五十年（水野久直）《短歌》夕景（島田修二）《俳句》故園（原裕）《寄稿》大和・神波多神社の仮面（菅居正史）《八幡宮紹介》金王八幡宮（東京都渋谷区）他 昭和57年10月</p>
12号 ※	<p>特集：神道美術</p> <p>《口絵》北野天神縁起絵巻（笠井昌昭）・冬の祭（宇野正人）《座談会》神像について（西川杏太郎・佐々木剛三）《論文》神道まんだら（景山春樹）・神鏡（所功）・神社縁起絵巻（宮次男）・神馬図絵馬について（河田貞）《随想》ユペンハーゲン大学にて（高藤昇）・無窮花（三浦祐起）・発掘冥利（松尾宣方）・竜は架空の想像物です（村主匡左）・井上毅と女帝廃止論（小林宏）《日本・日本人》経済大国日本（ルーベン・L・F・アビト）《信仰を語る》神のみこころを伝えよ（鈴木義一）《短歌》分身の兄（田谷鋭）《俳句》樺紅葉（稲畑汀子）《寄稿》神道の心と形（森田康之助）・絶（樋口兼其）・トルソの“いのち”（臼井貞光）《八幡宮紹介》飯香岡八幡宮（千葉県市原市）他 昭和58年1月</p>

13号 残部僅少	<p>特集：山</p> <p>《口絵》春日宮曼荼羅（川村知行）・山の神（茂木栄）《座談会》山と日本人（内藤正敏・富山和子・宮家準）《論文》神奈備山思想（益田勝実）・山の民俗（堀哲）・山岳信仰と山伏修行（戸川安章）・山と仏教（月光善弘）・古代の山（石上七輔）《随想》吉野山を描く（白根光夫）・愛惜の想い（吉田茂穂）・コスモス（坂井昭保）・寒林の明るさに居る時（岸田寛）・我が家の維新（藤井貞文）《日本・日本人》戦後民主主義の惨敗（ジェフリー・キーリング）《うから・やから》神社神道の信仰について（落合偉洲）《短歌》春灯（馬場あき子）《俳句》花巻にて（香西照雄）《暮らしのなかの神》漬物の神さま《寄稿》王祇祭の「黒川能」（川井盛次）《八幡宮紹介》大宝八幡宮（茨城県下妻市）他 昭和58年4月</p>
14号 ※	<p>特集：道</p> <p>《口絵》安鎮曼荼羅（清水実）・道一信濃の疾風太郎（茂木栄）《座談会》古代の官道一陸行・水行（木下良・鈴木靖民・梶山林継）《論文》神の道・人の道（三橋健）・道の民俗（野本寛一）・巡礼の道（星野英紀）・道饗の祭り（粕谷興紀）《随想》夢の中の扇（松本寧至）・御斎神事（宮崎義敬）・人間と山（ロバート・J・アダムス）・歴史の彼方の日本語（中島司有）・京の宿（上総英郎）《日本・日本人》日本人一変わらざる民族（トマス・インモース）《うから・やから》祭りのところ（濱田進）《短歌》光の粒（佐佐木由幾）《俳句》湯治（森澄雄）《暮らしのなかの神》お菓子の神さま（長谷川陽一郎）《寄稿》木彫史私観（榎本栄一）《八幡宮紹介》穴八幡宮（東京都新宿区）他 昭和58年7月</p>
15号 ※	<p>特集：海</p> <p>《口絵》石清水八幡曼陀羅（大倉基佑）・湖の祭り（茂木栄）《座談会》海の民俗（任東権・臼田甚五郎）《論文》海の神（牧田茂）・漂着神（小倉学）・海女と潮（大藤ゆき）・海に生きる人々（宗方巖）・海の文学（滝口泰行）《随想》わが朝井閑右衛門（石原八束）・鯨について（尾上菊蔵）・情緒（西沢爽）・33 さ二九〇八（北島義三）・花の心（望月七郎）《日本・日本人》私と日本（アレグリーノ・アレグリーニ）《講演》皇室と日本人（江藤淳）《短歌》夕顔（上田三四二）《俳句》菩提子（岸田稚魚）《うから・やから》お伊勢さん 大神宮さん（鈴木正男）《暮らしのなかの神》お酒の神さま（川崎洋一）《寄稿》甘柿渋柿（近藤喜博）・近世の神仏分離（森正康）《八幡宮紹介》長浜八幡宮（滋賀県長浜市）他 昭和58年10月</p>
16号 ※	<p>特集：稲荷神</p> <p>《口絵》鼠の草子（岩崎均史）・遠山祭り（茂木栄）《座談会》伏見稲荷大社の由緒記をめぐる（小島鉦作・三橋健）《論文》稲荷信仰の発生と原型と（近藤喜博）・神杉と鎮魂のまつり（山上伊豆母）・稲荷講（平井直房）・稲荷信仰点描（鈴鹿千代乃）《随想》風景（志摩芳次郎）・宗良親王『李花集』の思い出（田中正明）・無限の透明な黒暗（佐藤鶴麿）・キスカ撤収作戦の思い出（市川浩之助）《日本・日本人》東欧から見た日本（松井嘉和）《短歌》一期の軽さ（富小路禎子）《俳句》月光（三好潤子）《うから・やから》宮司の日拝座（堀熊彌彦）《暮らしのなかの神》まむし除けの神さま（土肥誠）《寄稿》日本国憲法と宮中祭祀（樋口兼其）・新収松花堂書状について（矢崎格）《八幡宮紹介》富岡八幡宮（神奈川県横浜市）他 昭和59年1月</p>
17号 ※	<p>特集：性</p> <p>《口絵》天神画像の世界（味酒安則）・神輿（監物恒夫）《座談会》性と宗教（片山文彦・佐伯真光・吉山登）《論文》神話のなかの性（伊藤清司）・両性具有について（矢吹省司）・性の民俗（土井卓治）・遊女（鈴鹿千代乃）《随想》日本人の思考と表現（小野祖教）・天罰と人罰（重松一義）・皇室の御敬神（金子安平）・油彩の源氏物語大絵巻（山口くすえ）・思い出の花祭（杉浦強）《日本・日本人》滞日余譚（金思燁）《短歌》矮鶏庭園抄（福島泰樹）《俳句》鳥の道（石寒太）《うから・やから》家の風と物学びと（阪本健一）《暮らしのなかの神》塩の神さま（森正光）《寄稿》小笠原の鎮守の社（菅田正昭）《八幡宮紹介》今山八幡宮（宮崎県延岡市）他 昭和59年4月</p>
18号 ※	<p>特集：誕生</p> <p>《口絵》東寺の国宝三神像（山田泰弘）・船祭（監物恒夫）《座談会》誕生をめぐる民俗（竹田且・大藤ゆき・宮田登）《論文》誕生神話（大林太良）・骨に刻まれた記録（吉岡郁夫）・医学からみた誕生（野嶽幸正）・心理学における誕生（佐々木正宏）・誕生儀礼と籠かぶり（近藤直也）《随想》神官姿の講談師（興津要）・手紙族のひそかな愉しみ（山田稔）・わたしの道（川田功子）・わが戦記（小野迪夫）・信長の墓（井沢元彦）《日本・日本人》模倣か技術革新か（久枝浩平）《短歌》こころ映さむ（塚本邦雄）《俳句》八景（加藤郁乎）《うから・やから》人の一生における人との出会い（中野尹亮）《暮らしのなかの神》たばこの神さま（川崎洋一）《寄稿》文学作品としての「古事記」（ヴィエスワフ・コタンスキ）・修験道の習合と離散と（濱田進）《八幡宮紹介》宇美八幡宮（福岡県宇美町）他 昭和59年7月</p>

19号 残部僅少	<p>特集：結婚</p> <p>《口絵》善妙神立像（川崎滋子）・獅子舞（監物恒夫）《座談会》結婚の諸相（関敬吾・坪井洋文・江守五夫）《論文》日本神話にあらわれた結婚（吉田敦彦）・「子無きは去る」について（瀧川政次郎）・結婚の歴史（横田健一）・結婚の人間学（越前喜六）・法的にみた結婚と離婚（堀本久美子）・現代の結婚と離婚（金住典子）《随想》自前定年（富士正晴）・ビーバ メヒコ（ポール・聖名子）・唱歌「村まつり」削除におもう（斎藤雅文）・銀座雑感（中島欽一）・楽器に不自由した神主の息子（鈴木淳）《日本・日本人》心広く、体胖かに（松村耕輔）《短歌》帯広動物園にて（佐佐木幸綱）《俳句》女人結界門（角川春樹）《うから・やから》忠魂義胆を慰する（板井清直）《暮らしのなかの神》こんにやくの神さま（落合偉洲）《寄稿》三笠の山の月（桜井満）《八幡宮紹介》山名八幡宮（群馬県高崎市）他 昭和59年10月</p>
20号 ※	<p>特集：住吉の神</p> <p>《二十号記念特別対談》過去と現在、そして未来（臼田甚五郎・白井永二）《口絵》住吉大明神倚像（山田泰弘）・山車（堅物恒夫）《座談会》住吉信仰をめぐって（牧田茂・北見俊夫・亀山慶一）《論文》『住吉大社神代記』について（田中卓）・『住吉松葉大記』と梅園惟朝（真弓常忠）・住吉信仰（熊谷保孝）・住吉大社御田植神事（高谷重夫）・住吉造りの特質（櫻井敏雄）《随想》芭蕉と神道（佐伯彰一）・生きるということ（近衛秀健）・愛の欠如（佐藤永充）・四万十川行（大友務）・映画・テレビ・ショー（大倉徹也）《日本・日本人》日本の夏とヨーロッパの夏（関口武）《短歌》古苑深秋（加藤克巳）《俳句》田荷軒八色（永田耕衣）《うから・やから》吝惜身命の今日を迎えて（川井清敏）《暮らしのなかの神》お天氣の神さま（河田烈）《寄稿》岡山の吐普加美講（荻原稔）・平安朝の大嘗会行事所と行事弁（木本好信）・中国旅行記（川崎洋一）《八幡宮紹介》大崎八幡神社（宮城県仙台市）他 昭和60年1月</p>
21号 ※	<p>特集：記紀の世界</p> <p>《口絵》豊穰を祝う早乙女（吉田智一）・銅造十一面観音懸仏（八幡義信）《座談会》記紀万葉風土記の時代（神田秀夫・中村啓信・椛山林継・秋本吉徳）《論文》『古事記』と『日本書紀』（梅沢伊勢三）・〈国見〉と〈国生み〉（青木周平）・記紀神話のなかの出雲（神田典城）・「天之日矛」考（斎藤静隆）・『古事記』にみえる皇 hậu像（川上順子）《随想》半生 里神楽と共に（松本源之助）・速書き健康法（中根康雄）・われ幻の名優となりぬ（山本文郎）副業繁昌記（星野哲郎）・「国際化」におもう（羽倉信也）《日本・日本人》敗戦の日の保田與重郎（乙犬拓夫）《短歌》辛夷の花（山崎方代）《俳句》青き踏む（鷹羽狩行）《うから・やから》青牛の記（吉川正通）《暮らしのなかの神》禁酒の神さま（土肥誠）《青丘の祭り》江陵端午祭（加藤健嗣）《寄稿》靖国・護国の神々（三橋健）*神功皇后“実在”論（田中卓）・「神功皇后」論（北見俊夫）・田中卓博士の「神功皇后“実在”論」について（落合偉洲）*《八幡宮紹介》本郷八幡宮（山口県本郷村）他 昭和60年4月</p>
22号 ※	<p>特集：よみがえり</p> <p>《口絵》夜の空間に舞う祖霊（吉田智一）・井戸香炉 銘此世（矢崎格）《座談会》よみがえりをめぐって（小野泰博・佐々木宏幹・宮家準）《論文》神道におけるよみがえり（岡田重精）・蘇りの思想（山折哲雄）・語り物の風土（川村二郎）・勘平の切腹（今尾哲也）・生まれ変わり（倉石忠彦）《随想》秋庭俊彦の生涯と一冊の句集（紅野敏郎）・父の思い出（古川清）・舞踊食（黛節子）・米沢の旧町名復活運動（楠原佑介）《日本・日本人》日本神話と日本人（渡部昇一）《短歌》夏曆（西村尚）《俳句》詠草（入船亭扇橋）《うから・やから》「ハヤス」文化（横山直材）《暮らしのなかの神》芸能の神さま（河田烈）《青丘の祭り》秋夕遊（加藤健嗣）《寄稿》家庭と祭祀（水野治太郎）・稲霊の祭り（水谷類）《八幡宮紹介》玉村八幡宮（群馬県玉村町）他 昭和60年7月</p>
23号 ※	<p>特集：祝詞</p> <p>《口絵》稔りを祈る月夜の晩（吉田智一）・延喜式祝詞（金子善光）《座談会》延喜式祝詞を考える（三谷榮一・白井永二）《論文》祝詞研究の流れ（金子善光）・祝詞宣命（三宅清）・延喜式祝詞の文章（青木紀元）・祝詞の文学性（粕谷興紀）・祝詞と現代（酒井利行）《随想》つくば「85万博」について（鈴木博雄）・ぶどう酒の騒ぎ（馬淵良俊）・祭りの終り（須知徳平）・鎮守の舞台（角田一郎）・民謡迷想（大場いたる）・親心を知らぬうからやから（長曾我部勝）《日本・日本人》日本人とロシア人（扇貞雄）《短歌》近江の歌その他（前川佐美雄）《俳句》白萩（澤木欣一）《うから・やから》「又新」の心への遍歴（二宮正彦）《暮らしのなかの神》医薬の神さま（福原敏男）《寄稿》團十郎襲名と行事（鷺尾星児）・日記を読むために（鈴木正人）《八幡宮紹介》琴弾八幡宮（香川県観音寺市）他 昭和60年10月</p>

<p>24号 ※</p>	<p>特集：熊野信仰 《口絵》熊野曼荼羅図（玉蟲敏子）・春を告げる村祭り（吉田智一）《座談会》熊野信仰をめぐって（近藤喜博・赤井達郎・林雅彦）《論文》熊野修験道の諸相（豊島修）・熊野と観音信仰（速水侑）・古代の熊野（石上七輔）・紀州熊野の文学（石田拓也）・熊野比丘尼の文芸像（徳田和夫）《随想》日本人の自然観（松尾靖秋）・鮮かでおぼろな日（新保千代子）・文化とは「無要の要」と心得たり（木村繁治）・共存ということ（市川緋佐磨）・五黄の寅（皆川白陀）《日本・日本人》君が代・日の丸の読み方（関根文之助）《短歌》北京の朝（阿部正路）《俳句》初音（清水基吉）《うから・やから》八咫鳥（嶋津正三）《暮らしのなかの神》相撲の神さまとゆかりの神社（清水靖子）《青丘の祭り》全南道コサウム（加藤健嗣）《寄稿》〈聞く〉ことの呪性（古橋信孝）《八幡宮紹介》藤崎八幡宮（熊本県熊本市）他 昭和61年1月</p>
<p>25号 ※</p>	<p>特集：田の遊び 《口絵》田植えの祭り（芳賀日出男）・四季耕作図（山本泰一）《座談会》田の遊び（後藤淑・西角井正大・芳賀日出男）《論文》日本の稲作と芸能文化（新井恒易）・板橋の田遊び（小花波平六）・西浦の田楽（石井一躬）・伊雑宮のお田植祭（高橋六二）・中国地方の御田植神事（石塚尊俊）《随想》きつねのよめいり（川端豊彦）・この名前読めますか（長田=玖郎）・牛方の里（加藤俊夫）・読書会珍聞（有山大五）《日本・日本人》日本とアラブ（渥美堅持）《短歌》彗星（高野公彦）《俳句》おもしろし（金子兜太）《うから・やから》春日の春日（花山院親忠）《暮らしのなかの神》やきものの神さま（清水祥彦）《寄稿》椰の葉と山伏（小野迪夫）・羽豆神社の三十六歌仙扁額（奥出賢治）《八幡宮紹介》濱八幡宮（熊本県水俣市）他 昭和61年4月</p>
<p>26号 ※</p>	<p>特集：獅子舞 《口絵》悪魔祓いに舞い狂う獅子（吉田智一）・伎楽面 獅子（佐藤昭夫）《座談会》獅子舞あれこれ（三隅治雄・松本源之助・吉田智一）《論文》日本の獅子舞（田中義廣）・獅子頭の変遷（田辺三郎助）・獅子舞の楽器と音楽（樋口昭）・南島の獅子舞（崎原恒新）《随想》「小学唱歌集」をめぐり（一）（黒坂富治）・歌は世につれ 民謡の蘇生（玉川穎鷹）・心残りのしごとを想う（布施淳子）・日本へ留学して（白莉）《日本・日本人》海外から見た神道（サー ヒュー・コータツツィ）《短歌》天霧山（香川進）《俳句》桐の花（加倉井秋を）《うから・やから》わが終戦史（上米良利晴）《暮らしのなかの神》油にゆかりのある神々（川崎洋一）《寄稿》地名方言（石井良介）《八幡宮紹介》八幡古表神社（福岡県吉富町）他 昭和61年7月</p>
<p>27号 残部僅少</p>	<p>特集：神楽 《口絵》鎮魂を祈る神遊び（渡辺良正）・宮崎・高千穂神社の神楽面（田辺三郎助）《座談会》神楽の諸相（本田安次・倉林正次・渡辺良正）《論文》神楽概観（鷺尾星児）・江戸の里神楽（宮尾與男）・伊勢の御神楽（鈴木庄市）・中国地方の神楽（岩田勝）・椎葉神楽（茂木栄）《随想》「小学唱歌集」をめぐり（二）（黒坂富治）・印南野日岡のほとり（和田嘉寿男）・ミクロとマクロと感傷と（安藤金次郎）・あれも“まぼろし”これも“まぼろし”（小泉美喜子）《日本・日本人》東南アジアと日本人（梶村昇）《短歌》滝（石本隆一）《俳句》切り火（柳家小満ん）《うから・やから》わが敬神の系譜と出会い（加藤隆久）《暮らしのなかの神》かんびょうの神さま（加藤健嗣）《寄稿》古代語の「あらはる」とその周辺（森朝男）《八幡宮紹介》大宮八幡宮（東京都杉並区）他 昭和61年10月</p>
<p>28号 残部僅少</p>	<p>特集：天神信仰 《口絵》祭りにみる天神信仰（渡辺良正）・神廟・太宰府天満宮（味酒安則）《座談会》天神信仰をめぐって（遠藤泰助・所功・味酒安則）《論文》天神信仰の成立とその本質（笠井昌昭）・天神像の成立（衛藤駿）・天神と菅公（熊谷保孝）・天神講をめぐる民俗（加藤健嗣）《随想》「小学唱歌集」をめぐり（三）（黒坂富治）・人々の暮らし（木本有太可）・印象派を斬る（平兼虎）・黄金の道「秀衡街道」記行（斎藤彰吾）《日本・日本人》アメリカの教科書に生きる日本の心（名越二荒之助）《短歌》韓国旅詠（斎藤史）《俳句》イギリスの旅（桂樟蹊子）《うから・やから》師恩忘じ難し（櫻井勝之進）《暮らしのなかの神》毛髪神さま（清水靖子）《寄稿》コーカサス南路を征く（扇貞雄）《八幡宮紹介》若宮八幡宮（高知県高知市）他 昭和62年1月</p>
<p>29号 ※</p>	<p>特集：海人 《口絵》花白河蒔絵硯箱（矢崎格）・国崎の海女と神饌（中村由信）《座談会》海女の周辺（大藤ゆき・岩田貞雄・田辺悟）《論文》海人ということ（小川博）・房州の海女たち（高橋在久）・能登の舳倉島と海女（小倉学）・志摩の海女（矢野憲一）・南西諸島の海人（川崎晃稔）《随想》真桑から郡上白鳥まで（郡司正勝）・美術史の旅から（福本誠）・「去年の雪…」（渡辺英綱）・桜の花よ咲かないで（青木久子）《日本・日本人》東欧諸国と日本人（勝部真長）《短歌》サム</p>

	ルノリ (田井安曇)《俳句》沿線 (山口誓子)《うから・やから》東国開拓の小史 (金子安平)《暮らしのなかの神》しょうがの神さま (加藤健嗣)《八幡宮紹介》盛岡八幡宮 (岩手県盛岡市) 他 昭和 62 年 4 月
30号 ※	特集：戦後神道界をめぐる人々 《口絵》熊野御幸記 (清水実)《座談会》折口信夫の神道観 (白井永二・岡野弘彦・茂木貞純・津城寛文)《論文》戦後神道界をめぐる人々《随想》筑紫舞の伝承 (浄見學)・鎌倉つれづれ (小島寅雄)・神楽を拝見して (榎本由喜雄)・パリの大道芸人たち (橋本征子)《短歌》いつの世も (長沢美津)《俳句》夏景色 (飯田龍太)《八幡宮紹介》谷地八幡宮 (山形県河北町) * 第二次「悠久」既刊号紹介他 昭和 62 年 7 月
31号 残部僅少	特集：職人 《口絵》乳をのます女 (高雄観楓図屏風より) (榊原悟)・江戸の粋と雅び (原寛行)《論文》現代に生きる職人 (中村雄昂)・鶴岡放生会職人歌合について (鈴木棠三)・職人のことば (木村恭造)《随想》西洋の職人について (小野忠重)・てぬぐいと私 (川上桂司)・そばと私 (伊藤汎)・流転の職人 (高橋在久)《日本・日本人》アメリカにおける日本史教育と古代史研究 (ロバート・ボーゲン)《短歌》墓地 (柴生田稔)《俳句》山繭 (加藤楸邨)《うから・やから》心を結び力を協せて (合田正良)《暮らしのなかの神》足の神さま (木村佳世)《八幡宮紹介》羽田八幡宮 (愛知県豊橋市) 他 昭和 62 年 10 月
32号 ※	特集：諏訪信仰 《口絵》諏訪大社の神事 (島田潔・茂木栄)・諏訪大社社殿等について (加藤茂)《座談会》諏訪の祭りと信仰 (加藤茂・藺田稔・高橋六二)《論文》タケミナカタ神の性格と諏訪の鉄文化 (真弓常忠)・神道集<諏訪縁起>の方法 (福田晃)・御射山の祭り (倉石忠彦)《随想》裏みちの花 (小沢昭一)・ソ連随想 (村松友次)・悠久 (西尾能仁)・『告知板』のお話し (庄幸司郎)《日本・日本人》喪われた日本の心を嘆く (斎藤忠)《短歌》旧き手帖より (岡井隆)《俳句》春濤 (鈴木六林男)《うから・やから》諏訪神社の長崎くんちとその背景 (上杉千郷)《暮らしのなかの神》絹の神さま (加藤健嗣)《八幡宮紹介》福山八幡宮 (広島県福山市) 他 昭和 63 年 1 月
33号 ※	特集：節供 《口絵》ヒナのまつり (吉田智一)・尾張徳川家伝来の雛人形・雛道具 (四辻秀紀)《座談会》節供の諸相と展開 (臼田甚五郎・山中裕・櫻井満)《論文》三月節供をめぐる (井之口章次)・王朝における節供 (小山利彦)・近世における節供 (中山右尚)・三月節供と五月節供 (天野武)《随想》手づくりへの郷愁 (吉田光邦)・女子大生への願い (小瀬千恵子)・晩夏 (小澤裕)・中国随想 (谷地快一)《日本・日本人》日本新人類異考 (平野孝國)《短歌》春雪 (武川忠一)《俳句》野州真岡にて (平畑静塔)《うから・やから》塞翁が馬 (山田正)《暮らしのなかの神》防火、鎮火の神さま (清水靖子)《八幡宮紹介》井草八幡宮 (東京都杉並区) 他 昭和 63 年 4 月
34号 ※	特集：祇園祭 《口絵》祇園祭 (八坂神社・加藤健嗣)・出光美術館蔵祇園祭礼図屏風 (黒田泰三)《座談会》祇園祭の起源と変遷 (鈴木日出年・田中常雄・森谷尅久)《論文》祇園信仰 (柴田實)・会津田島祇園祭 (宇野正人)・津島祭 (毛利栄一)・備後の祇園祭 (村上正名)・祇園祭と鷺舞 (加藤隆久)《随想》下町の人情 義理と人情 (加太こうじ)・「わたしの映画の原作は…」 (土本典昭)・大人の辞書 子供の辞書 (鈴木喬雄)・嵯峨日記 (大森利憲)《日本・日本人》日本の紀元と日本の「くにがら」 (三瀧信吾)《短歌》北京某日 (扇畑忠雄)《俳句》梅雨入前 (清崎敏郎)《うから・やから》仰げば尊し (太田辰巳)《八幡宮紹介》八幡朝見神社 (大分県別府市) 他 昭和 63 年 7 月
35号 ※	特集：新嘗祭 《口絵》農耕のまつり (萩原秀三郎)・四季農耕図絵馬 (大久根茂)《座談会》農耕と祭り (土岐昌訓・萩原秀三郎・茂木栄)《論文》新嘗と神話 (松前健)・神宮の神嘗祭 (中西正幸)・出雲大社の古伝新嘗祭 (平井直房)・大嘗と日本の祭り (平野孝國)《随想》芝居の血 (藤野義雄)・作歌半世紀 (大塚雅彦)・『死者の書』のカット (石内徹)・秋から冬・子供のいる俳景 (岩城久治)《日本・日本人》「青年海外協力隊」の活動体験 (末次一郎)《短歌》アカンサスの下 (中野菊夫)《俳句》立秋以後 (林翔)《うから・やから》血族 (岡部巖夫)《八幡宮紹介》八幡神社 (神奈川県城山町) 他 昭和 63 年 10 月

36号 ※	<p>特集：春日信仰</p> <p>《口絵》春日祭（春日大社 田中真知郎・中東弘）・春日大社の宝物（大東延和）《座談会》春日大社の創祀と祭り（永島福太郎・花山院親忠・倉林正次）《論文》春日大社の神饌（岡本彰夫）・春日曼荼羅（菅居正史）・春日権現験記に見る春日信仰（大東延和）・春日大社の建築（岡田英男）《随想》或る刀へ寄せる思い（永田東一郎）・テレビの実像（高橋和恵）・入院所感（金子安平）・研究調査こぼれ話（小林一郎）《短歌》友情（水野昌雄）《俳句》田楽太鼓（松本旭）《うから・やから》親不孝の傷痕（岡本健治）《暮らしのなかの神》料理の神さま（貫居雅世）《八幡宮紹介》鳩森八幡神社（東京都渋谷区）他 昭和64年1月</p>
37号 ※	<p>特集：若宮信仰</p> <p>《口絵》春日若宮おん祭（春日大社・中東弘）・若宮関係美術（奥出賢治）《巻頭言》昭和天皇を敬仰す（白井永二）《座談会》春日若宮おん祭とその周辺（永島福太郎・花山院親忠・倉林正次）《論文》翁と童の存在論（鎌田東二）・備後地方の若宮信仰（田中重雄）・若宮関係資料（高橋寛司）《随想》昭和を送る（鳥居正博）・私の天命（伊藤颯夫）・折口学と現代っ子（本田典國）・月朧（高橋吟石）《短歌》昭和逝く（豊田清史）《俳句》花冷（山田みづえ）《うから・やから》この道はわが道（森武雄）《暮らしのなかの神》時の祖神（佐藤久忠）《八幡宮紹介》舞岡八幡宮（神奈川県横浜市）他 平成元年4月</p>
38号 残部僅少	<p>特集：国学の教え</p> <p>《口絵》本居宣長の遺跡・遺品・著述（本居宣長記念館・小泉祐次）《座談会》真淵・宣長・篤胤の学問と思想（上田賢治・安蘇谷正彦・坂本是丸）《論文》国学教育論（芳賀登）・荷田春満の和歌（三宅清）・鈴木重胤（神谷俊司）・伴信友（森田康之助）《随想》柳田国男と私（森山泰太郎）・拝礼もいろいろ（真杉高之）・弁慶の水衣（藤田洋）・親の意見と茄子の花（木村重利）《日本・日本人》集落の団結ということ（久保喜六）《短歌》籠居日日（千代國一）《俳句》青の刻（野澤節子）《八幡宮紹介》日牟禮八幡宮（滋賀県近江八幡市）他 平成元年7月</p>
39号 ※	<p>特集：国学者の古典研究</p> <p>《口絵》国学者の名筆・短冊（服部天神文庫・加藤芳哉）《座談会》国学者の歌ごころ（臼田甚五郎・太田善麿・岡中正行）《論文》国学者の祝詞研究（金子善光）・国学者の記紀研究について（小笠原春夫）・国学における万葉集の研究（前期）（居駒永幸）・国学における万葉集の研究（後期）（北村進）・国学における源氏物語・古今和歌集の研究（中田武司）《随想》土佐和紙を育てた人々（尾崎巖）・『源氏物語』の女性に対する好感度ランク（西沢正史）・花筏（岡本岱）・移動する精神（飯島一彦）《日本・日本人》古典逍遥（村尾次郎）《短歌》牡丹園（国見純生）《俳句》みそはぎ（村沢夏風）《うから・やから》私の履歴書（福島信義）《八幡宮紹介》桜山八幡神社（岐阜県高山市）他 平成元年10月</p>
40号 ※	<p>特集：「即位の礼」一</p> <p>《口絵》大正天皇御大礼絵巻（土肥誠）《論文》「大嘗祭」とは何か（佐野和史・茂木貞純）・即位の礼（落合偉洲）・大嘗祭と即位（倉林正次）・大嘗祭と罪（宮崎博生）《随想》山を歩けば（中里富美雄）・哀しみを書く作家（安藤始）・絵のひとりごと（白幡恭子）・「英語能」（児玉信）《短歌》元年の花（玉井清弘）《俳句》ロダンの拳（星野紗一）《うから・やから》出会いの大切さ（山本孝司）《八幡宮紹介》寒河江八幡宮（山形県寒河江市）他 平成2年1月</p>
41号 残部僅少	<p>特集：「即位の礼」二</p> <p>《口絵》近世・即位礼の図（大槻装束店）《論文》大嘗祭のこころ（森田康之助）・図説・大嘗祭論（幡掛正浩）・大嘗祭の造酒兎と班田収受法（三谷榮一）・古代律令時代の即位式と大嘗会（益田勝実）・真床追衾の秘儀（真弓常忠）・自然科学からみた大嘗祭（片山文彦）・即位礼及び大嘗祭の服装について（三木善明）・御大礼と神宮（中西正幸）・大嘗祭の稲種（茂木栄）・新たな誕生（石上七鞆）《随想》八幡宮と私（大三輪龍卿）・戦国武将の心（米原正義）・神道書、太平洋を渡る（畑駿一）・三島由紀夫氏の自決より二十年（椛島有三）《日本・日本人》イタリアの宗教事情（原田昌幸）《短歌》青葩（清水房雄）《俳句》春立つ（中西舗土）《八幡宮紹介》道野辺八幡宮（千葉県鎌ヶ谷市）他 平成2年4月</p>
42号 残部僅少	<p>特集：「即位の礼」三</p> <p>《口絵》御即位・大嘗会の図（宮内庁書陵部・鈴木真弓）《論文》中臣寿詞の成立（松前健）・中臣寿詞の主旨について（粕谷興紀）・「食国」の表現と大嘗祭（桜井満）・即位の礼と大嘗祭（西宮一民）・英国の戴冠式（サー・ヒュー・コータツツィ著・佐藤道夫訳）・古代中国帝王の祭礼（王矛・王敏）・王国タイの即位式（松井嘉和）・オランダ国王の就任式（真弓常忠）《随想》文化摩擦（宮崎緑）・愛する町、金沢（長谷川喜美恵）・紀元二千六百年の思い出（大槻眞）・『一ツトセぶし』をめぐる（倉田隆延）《短歌》なまけもの（安田純正）《俳句》柳絮舞ふ（森田峠）《うから・やから》いのち生きて（古谷金祐）《八幡宮紹介》八幡社（埼玉県加須市）他 平成2年7月</p>

43号 残部僅少	<p>特集：「即位の礼」四</p> <p>《口絵》昭和天皇御大礼繪巻（国際情報社・犀東国府種徳）《論文》大嘗祭理解の問題点（上田賢治）・遷都から即位・大嘗の祭へ（平野孝國）・大嘗祭に関する法的検討（杉原誠四郎）・即位の宣命に見える皇位の思想（青木紀元）・大嘗祭における芸能（本田安次）・失われた戴冠式（神社新報特別取材班）・〈資料〉朝鮮朝「国朝五禮儀」にみる即位禮（加藤健司）《随想》折口信夫の悲嘆（千勝三喜男）・九月の連想（岩井利夫）・今、幼児は頭を栄養失調にさせられている（山下宏一）・お月見（岡本勝）《日本・日本人》これでいいのか日本人（中村實）《短歌》白き真昼（若山旅人）《俳句》猪来れり（三橋敏雄）《うから・やから》野人神主ジグザグ人生（西川仁之進）《特別寄稿》利根の郷に於ける諏訪信仰（金子安平）《八幡宮紹介》千栗八幡宮（佐賀県北茂安町）他 平成2年10月</p>
44号 ※	<p>特集：こんぴら信仰</p> <p>《口絵》祝舎神事（お頭人さん）（金刀比羅宮・琴陵容世）・金毘羅祭礼図屏風（印南敏秀）《座談会》こんぴら信仰の根源（岩井宏實・琴陵光重・杉山二郎）《論文》金刀比羅宮の特殊神事（琴陵容世）・金刀比羅宮と古川躬行（黒木敏行）・金毘羅信仰の歴史的展開（松原秀明）・金毘羅信仰（徳山久夫）・奉納物をめぐる時間（印南敏秀）・菱屋平七の金毘羅参詣（守屋毅）・こんぴら歌舞伎（山川静夫）《随想》鎮守の森（宮脇昭）・万葉への誘い（椎名嘉郎）・戦没者祭祀は国政の基本（木村元岳）・思考の壁（石上七鞆）《日本・日本人》日本の今昔を思ふ（中村稜）《短歌》一天の蒼（西川青濤）《俳句》人日（松澤昭）《うから・やから》わが生い立ちの記（澁川謙一）《口述筆記》政教分離について（渡部昇一）《八幡宮紹介》水戸八幡宮（茨城県水戸市）他 平成3年1月</p>
45号 ※	<p>特集：家の神々と祭り</p> <p>《口絵》東北の竈神（内藤正敏）《座談会》家の神々と祭り（田中久夫・林宏・藤原修）《論文》家の神々と祭り（竹田旦）・カマド神（鈴木正崇）・薩南の火の神祭り（飯島吉晴）・家の神に関する文献目録（島田潔）《随想》自然保護について思うこと（羽倉信也）・「あそび」に思ふ（寛泰彦）・「世界の孤児」にならないために（小田村寅二郎）・如月悲傷（鈴木正彦）《日本・日本人》日本文化の源流・神道の心（副島廣之）《短歌》早春の杜（小市巳世司）《俳句》四季鎌倉（草間時彦）《うから・やから》戦後の神社神道（神野藤重申）《八幡宮紹介》喜多八幡宮（島根県大田市）他 平成3年4月</p>
46号 残部僅少	<p>特集：御大典実感特集</p> <p>《口絵》饗宴の儀・大饗の儀（天皇陛下お言葉（即位式正殿の儀の宣命））《巻頭のことば》白井永二《短歌》大和にありて新た世を思ふ（岡野弘彦）《論文》平成即位大礼諸儀式要録（宮崎博生）・各地の御大典奉祝記念行事（抄）（悠久編集部編）・御大典奉仕を終えて（鎌田純一）・大嘗宮の儀に参列して（村上正邦）・御大礼拝観記（轡田勝弥）・神宮御親謁（中西正幸）・平成大嘗祭の音楽（多忠磨）・御大礼から大嘗祭へ（大槻眞）・皇居前広場の光景（栢島有三）・天皇陛下ご即位祝賀祈願祭を終えて（赤羽根恵吉）・祭祀は皇室の私的行為にあらず（市村真一）・大嘗祭を迎へて（小堀桂一郎）・平成の大礼を顧みて（所功）・即位礼の変遷と今後の課題（阪本是丸）・「即位儀礼」・「大嘗祭」関係資料展示の意義（西牟田崇生）・即位の礼および大嘗祭についての感想（ロコバント・エルンスト）・大嘗祭と日本文化の発明（ヘヴィンズ・ノルマン）・悠紀田（秋田県五城目町）・主基田（大分県玖珠町）・大嘗祭と三木家の匱服貢進（三木信夫）・大嘗祭繪服調進の経緯（古橋茂人）《八幡宮紹介》岡八幡宮（三重県上野市）他 平成3年8月</p>
47号 ※	<p>特集：鶴岡八幡宮御鎮座八百年記念</p> <p>《口絵》鶴岡八幡宮の四季（八幡宮の信仰）白井永二《論文》鶴岡八幡宮御鎮座小史（悠久編集部）・鶴岡八幡宮関係略年譜・貴種の再興（森田康之助）・源頼朝の信仰（黒川高明）・中世都市鎌倉と鶴岡八幡宮鎮座について（松山宏）・四枚の棟札（鈴木棠三）・頼朝と西行（居駒永幸）・鶴岡八幡宮関係文献目録（高橋寛司編）・御鎮座八百年大祭神事神賑日程《随想》由比ヶ浜に寄す（貫達人）・それぞれの鶴岡供僧たち（三浦勝男）・源家の宗社鶴岡八幡宮（大三輪龍彦）・「御鎮座八百年記念 鎌倉・鶴岡八幡宮展」を前にして（八幡義信）・荒木郷を訪ねて（吉田茂穂）《短歌》鎌倉・對馬（臼田碧洋）《俳句》秋の声（清水基吉）《八幡宮紹介》若宮八幡宮（山梨県韮崎市）他 平成3年10月</p>
48号 ※	<p>特集：出雲大社とその信仰</p> <p>《口絵》出雲大社の宝物《座談会》出雲大社とその信仰（森田康之助・平井直房・千家達彦・千家和比古）《論文》出雲大社の信仰（森田康之助）・教派神道としての出雲大社教（井上順孝）・出雲の国造の神賀詞（金子善光）・出雲大社の年中祭祀（新雅英）《随想》明治から平成へ（金岡秀友）・ふるさとは（間所ひさこ）・消えていくけんか祭り（渡辺良正）《日本・日本人》日本と神社神道（スチュアート・ピッケン）《短歌》ものみな秋へ（岡部桂一郎）《俳句》閻魔詣</p>

	戯作(阿波野青畝)《うから・やから》信仰と日常生活(司忠行)《八幡宮紹介》櫛引八幡宮(青森県八戸市)他 平成4年1月
49号 ※	特集:出雲の風土と神話 《口絵》出雲の歳時記《座談会》出雲文化と八千矛神(臼田甚五郎・大久間喜一郎・馬場光子) 《論文》出雲神楽(石塚尊俊)・火継ぎ神事(平井直房)・久米邦武『裏日本』と出雲の歴史地理(秋元信英)・小泉八雲と出雲大社(小泉凡)《随想》橋のある風景(木暮正夫)・神の業(喜田川昌之)・筑後の「脆美」(小松山俊)・東京の民俗芸能(須藤功)《日本・日本人》国際交流の意義(御巫清尚)《短歌》八雲立つ国(山川京子)《俳句》出雲抄(藤田湘子)《うから・やから》私の信仰(服部貞弘)《八幡宮紹介》御調八幡宮(広島県三原市)他 平成4年4月
50号 ※	特集:源実朝公生誕八百年記念 《グラビア》右大臣源実朝《巻頭言》実朝公の遺徳(白井永二)《論文》将軍源実朝の人物像をめぐって(三浦勝男)・鶴岡八幡宮と源実朝(八幡義信)・源実朝の歌風(岡野弘彦)・歌人頼朝、実朝の和歌一斑(久保田淳)・源実朝と藤原定家との熱い間柄(志村士郎)《随想》鎌倉文化と実朝(福田繁)・神様の領分(鈴木淳)・和歌とお香(東郁子)・太陽を射る話(萩原秀三郎)《日本・日本人》文化交流を考える(鹿取泰衛)《短歌》中国スケッチ(小池光)《俳句》さざなみ(倉橋羊村)《うから・やから》私の歩んだ道(工藤伊豆)《八幡宮紹介》函館八幡宮(北海道函館市)他 平成4年7月
51号 ※	特集:西洋人の捉えた日本像の源流一 《グラビア》西洋との出会い《座談会》西洋人の見た初期日本像(田中健夫・荒野泰典・ロナルド・トビ・加藤榮一)《論文》日欧比較文化抄論(松原久子)・欧米人の見た日本、関係文献目録(島田潔)《随想》神道の「神」とキリスト教の「神」(児玉麻里)・学术交流への投資(渡部武)・現代簡単食事考(廣庭由利子)・能登のキリコ祭り(藤平朝雄)《日本・日本人》国際化の意味と日本の国際貢献(高橋祥起)《短歌》古き惑星(山中智恵子)《俳句》水鶏笛(後藤比奈夫)《うから・やから》私の信仰(藤本勝喜)《八幡宮紹介》野辺地八幡宮(青森県野辺地町)他 平成4年10月
52号 残部僅少	特集:西洋人の捉えた日本像の源流二 《グラビア》西洋との回廊・横浜《座談会》西洋人の見た日本像(小林善彦・宮地正人・加藤榮一)《論文》シーボルト著『日本』にあらわれたシーボルトの日本観(中井晶夫)・モースの日本人観(鈴木康子)・ラフカディオ・ハーンと日本の伝承文化(小泉凡)・欧米人の見た日本、関係文献目録(島田潔)《随想》伊勢の思い出(古川英二)・鴨神道のことども(梨木祐大)・黒石寺の蘇民祭(北條光陽)《日本・日本人》「日本」を一人前の国家にするために(田久保忠衛)《短歌》野棲み(安永露子)《俳句》冬隣(上田五千石)《うから・やから》悠久の根源(松平永芳)《八幡宮紹介》大江八幡宮(静岡県相良町)他 平成5年3月
53号 残部僅少	特集:伊勢信仰の周辺 《グラビア》近世御師と伊勢参宮(小堀邦夫)《論文》伊勢参宮小史(悠久編集部)・北海道の伊勢信仰(村田文江)・奥羽の天照大神奉祀神社(尾崎保博)・神明信仰の一諸相(齊藤壽胤)・天照太神宮神号一件記(馬場直也)・東海の伊勢信仰(井後政晏)・越中の伊勢信仰(尾崎定輝)・伊勢の神宮と地域神社(櫻井治男)・近江湖北地方の伊勢信仰について(藤村滋)・山口大神宮と同遥拝所の建立(広田暢久)・岡山県の伊勢信仰(次田圭介)・四国地方の伊勢信仰(森正康)・肥前衆の伊勢参宮と世情(久田松和則)・南九州の伊勢講(松原武実)《随想》枯野の琴(垣田昭)・神とわが住む宇宙と(太田正文)・沖縄の祭祀と現況(比嘉康雄)《日本・日本人》「西安事件」のグロテスクな意味(丹羽春喜)《短歌》梅の里(石川恭子)《俳句》花(伊藤通明)《うから・やから》志を父母に享く(宮崎義敬)《八幡宮紹介》八幡神社(愛媛県御荘町)他 平成5年5月
54号	特集:伊勢神宮の歴史と祭祀 《口絵》神宮の祭典(篠原龍)《座談会》伊勢神宮の歴史と祭祀(鎌田純一・矢野憲一・春日美奈子)《論文》神宮祭祀の特徴(小堀邦夫)・封建社会における「移動」と「運動」(ヘイヴンズ・ノルマン)・伊勢神宮と源頼朝(黒川高明)《随想》裏木曾とお伊勢様(可知重彦)・風樹の嘆(滋岡長平)・出雲の稲魂のまつり(白石昭臣)《寄稿》丹頂の鶴も来て舞へ(西川青濤)《日本・日本人》我国古来の同族会としての「鴨氏始祖祭会」(田中周友)《短歌》春雪(武川忠一)《俳句》右紅左白(綾部仁喜)《うから・やから》回顧録抄(津田信基)《八幡宮紹介》宮堅八幡宮(新潟県山北町)他 平成5年7月

55号	<p>特集：神宮式年遷宮</p> <p>《口絵》神宮の御神宝（中井正晴）《巻頭言》文化の伝承（白井永二）《対談》遷宮の祭り（倉林正次・中西正幸）《論文》建築からみた伊勢神宮（櫻井敏雄）・考古学からみた御神宝（椋山林継）・順徳天皇の神宮御崇敬（所功）*伊勢神宮の御装束神宝（中井正晴）・遷宮関係行事一覧（松本滋）《随想》平成の式年遷宮の意義（福田繁）・佳き年の夢想（出雲井晶）・伊勢大神楽二題（藤田庄市）《短歌》問ふことあらば、すべなかるべし（岡野弘彦）《俳句》天心抄記（津沢マサ子）《八幡宮紹介》八幡神社（埼玉県熊谷市）他 平成5年10月</p>
56号 残部僅少	<p>特集：浅間信仰</p> <p>《口絵》吉田の火祭り（須藤功）《座談会》浅間信仰（金森安彦・古屋真孝・上文司逞）《論文》赤人の富士讃歌（櫻井満）・富士山の景観論の変遷（足立朗）・富士信仰の変遷（星野芳三）《随想》帆かけ舟が生まれる（古屋金祐）・あれから五十年（川崎繁）・志摩安乗の正月（貫居嘉洋）《寄稿》式年遷宮（西川仁之進）《日本・日本人》日本の緑とやまと心（後藤松男）《短歌》時の歌（伊藤一彦）《俳句》瑞景（成瀬櫻桃子）《うから・やから》平成大嘗祭（神不二男）《八幡宮紹介》嘯吹八幡神社（福岡県豊前市）他 平成5年12月</p>
57号 残部僅少	<p>特集：神道史I</p> <p>《口絵》信仰の起こり《論文》神道史総論（上田賢治）・神道の発生（落合偉洲）・仏教の伝来と神道（茂木貞純）・古代の神祇制度（宮崎博生）・神祇行政の充実と展開（小野迪夫）・神仏習合と神社（佐藤真人）・神道学説の発生（白山芳太郎）《日本・日本人》日本と日本人（市川伊三夫）《日本の民俗芸能》茨城県（加藤健司・茂木栄）《うから・やから》神職養成所五十年のあゆみ（磯貝洋一）《八幡宮紹介》山崎八幡宮（山口県新南陽市）他 平成6年4月</p>
58号 残部僅少	<p>特集：神道史II</p> <p>《口絵》松尾大社の御神像《論文》吉田神道（嵯峨井健）・江戸幕府の神社政策（高藤晴俊）・諸家の神道（岡中正行）・明治維新と神祇制度（武田秀章）・神社政策の展開と神祇院（櫻井治男）・教派神道（島藺進）・神社本廳の設立（佐野和史）《日本・日本人》日本の調停文化（杉山昭）《日本の民俗芸能》群馬県（都丸十九一）《うから・やから》月山奉仕の日々（林正近）《八幡宮紹介》若宮八幡宮（茨城県常陸太田市）他 平成6年7月</p>
59号 ※	<p>特集：川と神々</p> <p>《口絵》川の祭り（芳賀日出男）《論文》川と神々（落合偉洲）・利根川流域と神社（川寄洋一）・姫川流域と神々の伝承（島田潔）・犀川と穂高見命（倉石忠彦）・天龍川水系の社と祭り（茂木栄）・淀川流域の神社と信仰（伊藤廣之）・大動脈「紀ノ川」と神々（池上良太）・筑後川流域の信仰（貫居嘉洋）《日本・日本人》洋行（望月洋子）《日本の民俗芸能》山梨県（高山茂）《うから・やから》靖國のこころ（大野俊康）《八幡宮紹介》隅田八幡神社（和歌山県橋本市）他 平成6年10月</p>
60号 ※	<p>特集：先祖の祭り</p> <p>《口絵》先祖の祭り（萩原秀三郎）《対談》先祖の祭り（井之口章次・近藤啓吾）《論文》正月の火と水（大島建彦）・餅とミタマ（斎藤ミチ子）・沖縄の祖先祭（新垣義夫）・正月様（石塚尊俊）《寄稿》山口県の近世・近代初期の神社史料について（広田暢久）*第二次「悠久」既刊号紹介《日本・日本人》まつりと神々（野澤政直）《八幡宮紹介》柯柄八幡神社（岐阜県金山町）他 平成7年3月</p>
61号 ※	<p>特集：祭祀考古学の現況</p> <p>《口絵》海と山の祭祀遺跡（原田昌幸）《鼎談》「土偶・人形・柱」祭祀考古学の現況（椋山林継・金子裕之・原田昌幸）《論文》土偶儀礼の復元（磯前順一）・弥生時代の祭祀（露口真広）・古墳時代の祭祀（穂積裕昌）・藤原京の祭祀（竹田政敬）《うから・やから》わが神主生活（緒方教明）《全国一宮祭礼記》美濃国（南宮大社）・信濃国（諏訪大社）・上野国（一之宮貫前神社）《八幡宮紹介》忽那島八幡宮（愛媛県中島町）他 平成7年5月</p>
62号 残部僅少	<p>特集：対馬の信仰</p> <p>《口絵》豆穀の赤米神事（加藤健嗣）《論文》石の島、木の島、記紀の島（臼田甚五郎）・近世対馬の神社研究（南啓治）・対馬の式内社をめぐる（岡中正行）・穂落神の原郷（神谷吉行）・対馬の霊地信仰（岡田啓助）・対馬の「壇」について（成田守）《口絵解説》加藤健嗣*対馬全島図《うから・やから》わが戦後五十年（山本雅道）《全国一宮祭礼記》近江国（建部大社）・飛騨国（飛騨一宮水無神社）・下野国（宇都宮二荒山神社・日光二荒山神社）・陸奥国（奥州一宮八槻都々古別神社）・出羽国（鳥海山大物忌神社）《八幡宮紹介》龜山八幡宮（山口県下関市）他 平成7年8月</p>

63号	<p>特集：暦</p> <p>《口絵》日本の暦（暦の会）《論文》日本の暦の流れ（暦の会）・神社暦の担い手達（岡田芳朗）・暦と民俗学（牧田茂）古典文学にみる暦（諏訪春雄）・改暦令と祭日の変更（武田秀章）・情報メディアとしての暦の可能性（荒井芳廣）・参考文献一覧（暦の会）《うから・やから》御神意のままに（岩本典三郎）《全国一宮祭礼記》伊賀国（敢國神社）・伊勢国（椿大神社・都波岐神社）・志摩国（伊射波神社・伊雑宮）・尾張国（真清田神社）・三河国（砥鹿神社）《八幡宮紹介》今八幡宮（山口県山口市）他 平成7年10月</p>
64号	<p>特集：福神信仰</p> <p>《口絵》福神（宮本瑞夫）《座談会》福神信仰（岩井宏實・中田三貴勇・寶來正彦）《論文》福神の源流（宮本袈裟雄）・福神と貧乏神（鈴木健一）・図像としての宝船（近江昌司）《コラム》東京七福神めぐり（小森隆吉）・エビスビールの名称の由来（サッポロビール(株)）・福神漬の由来（(株)酒悦）《うから・やから》自然・調和・和楽の道へ（山崎宗弘）《全国一宮祭礼記》遠江国（小國神社）駿河国（富士山本宮浅間神社）・伊豆国（三嶋大社）・甲斐国（浅間神社）・相模国（寒川神社）《八幡宮紹介》石清尾八幡宮（香川県高松市）他平成8年1月</p>
65号	<p>特集：和算</p> <p>《口絵》算額（天野宏）《論文》和算の心（松岡元久）・和算史概説（佐藤賢一）・和算と土木技術（野口泰助）・寺子屋における算数教育（石川松太郎）《寄稿》所謂「鎌倉文士村」形成における一試論その一（浪川幹夫）・イギリス祭り紀行一（居駒永幸）《コラム》わが国の算盤発達史（トモエ算盤株式会社）《うから・やから》未だ努力中（前田瑞行）《全国一宮祭礼記》武蔵国（氷川神社）・安房国（安房神社）・上総国（玉前神社）・下総国（香取神宮）・常陸国（鹿島神宮）《八幡宮紹介》南方八幡宮（山口県宇部市）他 平成8年3月</p>
66号	<p>特集：神職日記</p> <p>《口絵》火と炎の夏祭り（芳賀日出男）《論文》羽田野敬雄の日記（田崎哲郎）・紹介神職の日記『桜陰筆記』（新井好一）・『櫛陰記』（中西正幸）・真木和泉守の日記とその生涯（小川常人）・上総の神職日記（椋山林継）《寄稿》所謂「鎌倉文士村」形成における一試論その二（浪川幹夫）・イギリス祭り紀行二（居駒永幸）《口絵解説》火と炎の夏祭り（芳賀日出男）《うから・やから》乾坤有情 お陰のままに（藤原茂男）《全国一宮祭礼記》山城国（賀茂別雷神社・賀茂御祖神社）・大和国（大神神社）・河内国（枚岡神社）・摂津国（住吉大社）《八幡宮紹介》鶴岡八幡宮（南八幡宮・島根県大田市）他 平成8年6月</p>
67号	<p>特集：神の橋</p> <p>《口絵》神の橋（須藤功）《論文》神社と橋（石田武久）・橋をめぐる神事（鈴木正崇）・橋と神事芸能（須藤功）・神話・伝説に現われる橋（大久間喜一郎）《寄稿》所謂「鎌倉文士村」形成における一試論その三（浪川幹夫）・イギリス祭り紀行三（居駒永幸）《うから・やから》有難い奉仕人生であったが（柳田耕平）《全国一宮祭礼記》越前国（氣比神宮）・加賀国（白山比咩神社）・能登国（気多神社）・越中国（越中一宮高瀬神社）《八幡宮紹介》大塩八幡宮（福井県武生市）他 平成8年11月</p>
68号	<p>特集：巖島信仰</p> <p>《口絵》巖島のご神宝（巖島神社社務所）《座談会》巖島神社の祭り（野坂元良・野坂元臣・木谷昌光）《論文》巖島神社の歴史（佃雅文）・巖島の信仰（岡崎環）・巖島神社の全国分布（神社本庁教学研究所）・巖島神社管絃祭（野坂元臣）・比婆郡地方の荒神神楽（萩原秀三郎）《入江相政日記を読む》一（岡野弘彦）《うから・やから》起死回生（佐伯虎之進）《全国一宮祭礼記》越後国（彌彦神社）・佐渡国（度津神社）・丹後国（籠神社）・伯耆国（倭文神社）《八幡宮紹介》安江八幡宮（石川県金沢市）他 平成9年2月</p>
69号	<p>特集：温泉信仰</p> <p>《口絵》温泉のまつりと行事《論文》「ゆ」の聖性と呪力（西村亨）・温泉の信仰と縁起譚（福田晃）・湯の信仰（西宮一民）・古典に見る温泉と温泉神（落合偉洲）・温泉神社の全国分布（神社本庁教学研究所）《寄稿》温泉の民俗（高木史人）《コラム》有馬温泉・道後温泉・別府温泉・白浜温泉《入江相政日記を読む》二（岡野弘彦）《うから・やから》葺牙寮の思ひ出（黒岩龍彦）《全国一宮祭礼記》石見国（物部神社）・備中国（吉備津神社）・周防国（玉祖神社）・長門国（住吉神社）《八幡宮紹介》吉保八幡神社（千葉県鴨川市）他 平成9年4月</p>
70号	<p>特集：中世文芸と鎌倉</p> <p>《口絵》御神宝の世界—鶴岡八幡宮の御神宝—《論文》心象としての鎌倉（日下力）・軍記物語にみられる鎌倉（曾我物語）（稲葉二柄）・『太平記』の世界と鎌倉（長坂成行）・連歌師と鎌倉（白井忠功）・東国歌人と鎌倉（中川博夫）《口絵解説》御神宝の世界—鶴岡八幡宮の御神宝</p>

	一川崙洋一《入江相政日記を読む》三（岡野弘彦）《うから・やから》出羽三山の信仰と伝統（阿部良春）《全国一宮祭礼記》因幡国（宇倍神社）・播磨国（伊和神社）・安芸国（厳島神社）《八幡宮紹介》古殿八幡神社（福島県古殿町）他 平成9年7月
71号	特集：神刀 《口絵》神社に伝わる国宝の数々《論文》神話にみられる剣の霊力（中村啓信）・御神刀・御神宝としての刀（菅谷文則）・神事芸能の中の刀（武井正弘）・刀鍛冶の信仰（石塚尊俊）・石上神宮とツツノミタマ（森正光）・熱田神宮と草薙神劍（山田蓉）《口絵解説》神社に伝わる国宝の数々《随想》随想 刀鍛冶（河内國平）・伝来の重代刀随想（吉川賢太郎）《入江相政日記を読む》四（岡野弘彦）《うから・やから》—如何に—（面山千岳）《全国一宮祭礼記》美作国（中山神社）・淡路国（伊弉諾神宮）・阿波国（大麻比古神社）・伊予国（大山祇神社）《八幡宮紹介》城山八幡宮（愛知県名古屋市）他 平成9年10月
72号	特集：大神神社の信仰 《口絵》大神神社の信仰（森好央）《座談会》三輪山の信仰（木山照道・藺田稔・桜井治男）《論文》大神神社の歴史（和田萃）・三輪神社の祭神（石田一良）・大神神社の祭祀（山田浩之）・三輪流神道（菅原信海）・大神神社宝物の紹介（片山一浩）・三輪神社全国鎮座一覧（神社本庁教学研究所）《口絵解説》大神神社の信仰（森好央）《入江相政日記を読む》五（岡野弘彦）《うから・やから》神仕え・宮造り五十年（木山照道）《八幡宮紹介》日吉八幡神社（秋田県秋田市）他 平成10年1月
73号	特集：神馬 《口絵》馬と祭礼（芳賀ライブラリー）《論文》祓えの象徴としての馬（小島瓊禮）・平安朝儀式にみられる馬の信仰（中田武司）・駒の歌謡（飯島一彦）・馬—カミと通ずるもの（田村善次郎）・馬の登場する主要な祭り（神社本庁教学研究所）・日本における馬の歴史と在来馬（市川健夫）・「鬼鹿毛馬頭観音」の誕生（神谷吉行）・日本の鞍（末崎真澄）・十列と馬長（鈴木真弓）《入江相政日記を読む》六（岡野弘彦）《うから・やから》歴史に対する慎みについて（青木芳郎）《全国一宮祭礼記》丹波国（出雲太神宮）・筑前国（筥崎宮）・筑後国（高良大社）・豊前国（宇佐神宮）《八幡宮紹介》千束八幡神社（東京都大田区）他 平成10年4月
74号 ※	特集：神輿 《口絵》亀戸天神社祭礼図にみる神輿（福原敏男）《論文》神輿の構造と形態（櫻井敏雄）・神輿の起源（佐野和史）・神輿の威力（嵯峨井建）・文献に探る祭りの掛け声（蜂谷清人）《口絵解説》亀戸天神社祭礼図にみる神輿（福原敏男）《コラム》宮師と神輿屋（村田桂一）・還御の風景（茂木栄）・木遣りで出る、木遣りで納まる（高柳保雄）・担いでみなきゃわかんない（安岡力也）《入江相政日記を読む》七（岡野弘彦）《うから・やから》「神主としての使命は何か」を思うとき（山本行隆）《全国一宮祭礼記》日向国（都農神社）・肥後国（阿蘇神社）・大隅国（鹿児島神宮）・薩摩国（枚聞神社）《八幡宮紹介》綴子神社（秋田県鷹巣町）他 平成10年7月
75号	特集：東歌の世界 《口絵》東歌の風土（椎名嘉郎）《論文》東歌、その成立と性格（水島義治）・挽歌と「魂乞ひ」（身崎壽）・峠の信仰と防人歌（菊地義裕）・本居宣長の東歌解釈をめぐって（北村進）・新嘗（高橋六二）・歌垣（鈴鹿千代乃）・武蔵野に占へかたやき雑考（貫居佳世）《うから・やから》日本人の心（草場昭司）《全国一宮祭礼記》筑前国（住吉神社）・豊後国（柞原八幡宮・西寒多神社）・肥前国（千栗八幡宮）《八幡宮紹介》代々木八幡宮（東京都渋谷区）他 平成10年10月
76号	特集：中世鎌倉の芸能 《口絵》職人歌合絵にみる芸能《論文》神楽（渡辺伸夫）・鎌倉期、鶴岡八幡宮における延年（松尾恒一）・中世鎌倉の舞楽と楽所（荻美津夫）・田遊び論の構想（山路興造）・早歌のふるさと（蒲生美津子）《口絵解説》職人歌合絵にみる芸能《入江相政日記を読む》八（岡野弘彦）《うから・やから》田舎の神社に生きる神社魂（末安大孝）《全国一宮祭礼記》紀伊国（日前神宮・国懸神宮）・讃岐国（田村神社）・土佐国（土佐神社）・肥前国（興止日女神社）・薩摩国（新田神社）《八幡宮紹介》雲八幡宮（大分県耶馬溪町）他 平成11年3月
77号 ※	特集：近世の神社日記 《口絵》相州鶴ヶ岡八幡宮絵図《論文》近世の神社日記（橋本政宣）・『秩父神社日鑑』について（西垣晴次）・『吉田家御広間雑記』について（橋本政宣）・『西宮神社社用日記』について（佐藤晶子）・『大山祇神社社用日記』について（根岸茂夫）・『賀茂御祖神社日記』について（嵯峨井建）《口絵解説》相州鶴ヶ岡八幡宮絵図（青山孝慈）《入江相政日記を読む》九（岡野弘彦）《うから・やから》道は近きに在り（桑原恒明）《八幡宮紹介》飯山八幡宮（山口県長門市）他 平成11年6月

78号	<p>特集：神の相撲</p> <p>《口絵》神の相撲《論文》相撲史概観（竹内誠）・相撲節と中世の相撲（新田一郎）・地方の神事相撲（櫻井徳太郎）・土俵祭（平井直房）・全国の主な神事相撲一覧（神社本庁教学研究所・相撲博物館）・各地の神事相撲（相撲博物館）《コラム》軍配/御幣/横綱と横綱土俵入り/力士手形/行司/シコ名（相撲博物館）《口絵解説》神の相撲《うから・やから》明治天皇御製を根幹に戴いて（西川邦秀）《全国一宮祭礼記》陸奥国（鹽竈神社）・但馬国（粟鹿神社・出石神社）・備前国（吉備津彦神社）《八幡宮紹介》大原八幡宮（大分県日田市）他</p> <p style="text-align: right;">平成11年9月</p>
79号	<p>特集：風の神信仰</p> <p>《口絵》八尾の風の盆（芳賀ライブラリー・藤田庄市）《論文》龍田風神祭祝詞についての一考察（粕谷興紀）・諏訪の薙鎌（島田潔）・伊勢の祭祀と風祭（八幡崇経）・冷たい「北風」への怖れ（木村博）・九州山地の風祭り（永松敦）《コラム》日本人の心意を探る「風ノ森」の風治信仰について（池田末則）・大和の風土と風・富山の風祭（漆間元三）《うから・やから》私の六十年（廣瀬和俊）《八幡宮紹介》富岡八幡宮（東京都江東区）他</p> <p style="text-align: right;">平成11年10月</p>
80号 ※	<p>特集：出羽三山の信仰</p> <p>《口絵》出羽三山の信仰（伊藤武）《鼎談》出羽三山信仰の歴史と伝統（阿部良春・緒方久信・東山昭子）《論文》出羽三山神社の年中祭祀について（緒方久信）・出羽三山の神仏分離（後藤起司）・庄内平野の修験と民俗（岩鼻通明）・奥之院湯殿山を中心とした出羽三山信仰（月光善弘）《随想》出羽三山に寄せる宗教民俗学的随想（戸川安章）《口絵解説》出羽三山の信仰（伊藤武）*第二次「悠久」既刊号紹介《入江相政日記を読む》十（岡野弘彦）《うから・やから》神、祖先、人（横田豊）《全国一宮祭礼記》若狭国（若狭彦神社）・備後国（吉備津神社）・隠岐国（水若酢神社）《八幡宮紹介》中村八幡宮（栃木県真岡市）他</p> <p style="text-align: right;">平成12年1月</p>
81号 ※	<p>特集：森</p> <p>《口絵》神の森《論文》森と社（西宮一民）・森に生かされた暮らし（渋澤寿一）・よみがえりと森（永松敦）・あるフランス人の見た鎮守の森（吉田好克）・守・森・そしてモリ（鎌田久子）《談》「榊」のことども（白井永二）《口絵解説》神の森《うから・やから》すべて、神と人の導きによって（片川昭壽）《八幡宮紹介》府八幡宮（静岡県磐田市）他</p> <p style="text-align: right;">平成12年5月</p>
82号 ※	<p>特集：水</p> <p>《口絵》川（内山りゅう）《鼎談》川と生きる（小林茂・柿沼幹夫・岡本一雄）《論文》水の神の信仰基盤（倉林正次）・聖水を捧げる（石野博信）・水源をもとめて（稲貴夫）「鎌倉街道」の渡（宮瀧交二）《うから・やから》加蘇山神社の由緒と御師（祀職）の系譜断片（湯澤貞）《全国一宮祭礼記》対馬国（海神神社）・隠岐国（由良比女神社）《八幡宮紹介》松原八幡神社（兵庫県姫路市）他</p> <p style="text-align: right;">平成12年7月</p>
83号	<p>特集：マチ—祭・市・町</p> <p>《口絵》日本の伝統的町並み（日本ナショナルトラスト）《鼎談》マチ—祭・市・町（藪田稔・竹林征三・田代順孝）《論文》マチ—日本的集落の構成原理に関するエッセイ（藪田稔）・「まちおこし」の体系・風土工学（竹林征三）・まちの再生と賑わいの杜（田代順孝）・町・邑・城・里・村（寺井泰明）・ねこ柳の祝い（齊藤壽胤）《うから・やから》私と文化財（松浦國男）《全国一宮祭礼記》和泉国（大鳥神社）・老岐国（天手長男神社）《八幡宮紹介》護国八幡宮（富山県小矢部市）他</p> <p style="text-align: right;">平成12年10月</p>
84号 ※	<p>特集：一宮の信仰</p> <p>《口絵》全国一宮の稲作儀礼（金森盈）《論文》一宮制の成立と概要（伊藤邦彦）・中・近世における諸国一宮制の展開（井上寛司）・橘三喜と『一宮巡詣記』（中田嘉種）《随想》信仰と共栄への道を開く「全国一の宮会」（山本行隆）・一番のはじめは一の宮（入江孝一郎）・一の宮の出会いと巡拝によせて（関口行弘）・社叢の恵み（芳賀日出男）《寄稿》私と一の宮（森宏太郎）《資料》全国一宮の社名・鎮座地・祭神・年中祭祀要覧《口絵解説》全国一宮の稲作儀礼《うから・やから》ボーイスカウトと水戸学（武浪嗣一）《全国一宮祭礼記》出雲国（出雲大社）《八幡宮紹介》伊賀八幡宮（愛知県岡崎市）他</p> <p style="text-align: right;">平成13年1月</p>
85号	<p>特集：辞書</p> <p>《口絵》国語辞書の世界《座談会》ことばを文字で考える（沖森卓也・野村雅昭・林史典・倉島節尚）《論文》国語辞書の成立と近世までの展開（沖森卓也）・近代国語辞典の誕生と展開（倉島節尚）・漢訳仏典と音義（月本雅幸）・キリシタン文献と辞書（松岡洸司）・近世国語辞書の定着（菅原範夫）・近世末・近代初の英語と日本語の接触（加藤知己）《うから・やから》神明奉仕を支えてくれた合気道と禊（飯田清春）《八幡宮紹介》春日部八幡神社（埼玉県春日部市）他</p> <p style="text-align: right;">平成13年4月</p>

86号	<p>特集：大和ことばと漢字</p> <p>《口絵》神道美術《論文》記紀神話の表記と訓読（上田賢治）・上代漢文訓読の一端（瀬間正之）・「国学」「国訓」の成立とその問題点（寺井泰明）・『和漢朗詠集』（青柳隆志）・風と風土の物語（竹林征三）・デウス、空、救済（沖永宜司）《口絵解説》神道美術（島田潔）《うから・やから》絆一支えられて一（億岐正彦）《人間国宝その芸と人を語る》六代目中村歌右衛門《八幡宮紹介》尾久八幡神社（東京都荒川区）他 平成13年7月</p>
87号 ※	<p>特集：開国期の翻訳</p> <p>《口絵》幕末・維新期の社頭風景《論文》翻訳（柳父章）・誤訳の歴史（倉島節尚）・「God」と「神」（平川祐弘）・「宗教」と「Religion」（島藺進）・近代技術の導入と翻訳語（中山緑朗）・蘭語の時代 阿蘭陀通詞（原田博二）・蘭語の時代 医学書の翻訳事情（石田純郎）《うから・やから》寶登山とともに（横田茂）《人間国宝芸と人を語る》杵屋佐登代《杜の文学碑めぐり》朱楽菅江と太田水穂（矢羽勝幸）《八幡宮紹介》古尾谷八幡神社（埼玉県川越市）他 平成13年10月</p>
88号	<p>特集：夢と信仰</p> <p>《口絵》夢と信仰《論文》夢への対応（古橋信孝）・中世説話の夢（山口康子）・『日蔵夢記』にみる夢の深層（河東仁）・明恵の夢（奥田勲）・『多聞院日記』にみえる夢（多川俊映）・夢と民間説話（野村純一）《うから・やから》曲りなりにも祀職の道一筋に（白井永二）《杜の文学碑めぐり》芭蕉・暁台・信綱（矢羽勝幸）《八幡宮紹介》紅葉八幡宮（福岡県福岡市）他 平成14年1月</p>
89号	<p>特集：近世の教育</p> <p>《口絵》釈奠《論文》近世の教育（石川松太郎）・「諸生」制度より見た近世藩校（高木靖文）・鈴屋門の成立（吉田悦之）・寺子屋教材の発展（多田建次）・近世女子教育における教材について（天野晴子）・筆子塚について（川崎喜久男）近世教育における知識人の学問と倫理・道徳の課題（芳賀登）《口絵解説》釈奠（加藤健司）《杜の文学碑めぐり》松尾芭蕉と高浜虚子（矢羽勝幸）《八幡宮紹介》由來八幡宮（島根県頓原）他 平成14年4月</p>
90号	<p>特集：近代教育の黎明</p> <p>《口絵》近代教育の黎明《論文》近代教育の理念（石川松太郎）・明治の小学校（千葉寿夫）・近代日本における「女子教育家」の役割（村越純子）・師範学校の成立（山田昇）・教育勅語と近代教育（鈴木博雄）・近代教育における知識人の倫理・道徳観の課題（芳賀登）《人間国宝その芸と人を語る》吉田蓑助（高橋秀雄）《杜の文学碑めぐり》大島完来と白田亜波（矢羽勝幸）《八幡宮紹介》旗岡八幡神社（東京都品川区）他 平成14年7月</p>
91号	<p>特集：国府総社の信仰と祭り</p> <p>《口絵》国府総社の祭りと儀礼《座談会》国府総社とは何か—その諸問題—（柳田直継・猿渡昌盛・茂木栄）《論文》総社の成立と展開をめぐって（伊藤邦彦）・国府総社の類型と祭りの一側面（茂木栄）・国府と総社（木下良）・御霊・人身御供と総社の祭り（島田潔）《資料》全国国府総社社名・鎮座地・祭神・年中祭祀要覧《口絵解説》国府総社の祭りと儀礼《杜の文学碑めぐり》釋迢空（矢羽勝幸）《近代教育の黎明》近代教育における知識人の倫理・道徳観の課題（芳賀登）他 平成14年10月</p>
92号 ※	<p>特集：近世参詣紀行</p> <p>《論文》道中日記から読む伊勢参宮（櫻井治男）・内山真龍の出雲大社参詣（岡宏三）・厳島参詣紀行について（佃雅文）・金毘羅参詣の旅日記と絵図（印南敏秀）・大山参り（鈴木良明）・鹿島参詣紀行について（田中善信）・近世の出羽三山参詣（岩鼻通明）・近世の旅と旅事情（高橋千劔破）《資料》鎌倉江の島参詣の絵図《杜の文学碑めぐり》小林一茶と松尾芭蕉（矢羽勝幸）《八幡宮紹介》白八幡宮（青森県鮎ヶ沢町）他 平成15年1月</p>
93号 ※	<p>特集：歌芸の旅人—菅江真澄</p> <p>《口絵》菅江真澄肖像《談話》真澄という人（白井永二）《論文》菅江真澄の和歌（岡野弘彦）・柳田國男と菅江真澄（田中宣一）・白挽歌考—『鄙廼一曲』と近世流行歌謡に及ぶ—（真鍋昌弘）・呪歌の書にみる呪術性（松山修）・菅江真澄の記した婚姻儀礼（豊島秀範）《資料》真澄の名乗・菅江真澄略年譜《近代教育の黎明》「国民道徳論」と文明の移転—植民地改善論と自主自由政策論を中心として（芳賀登）《杜の文学碑めぐり》松尾芭蕉と久保田万太郎（矢羽勝幸）《八幡宮紹介》銅之鳥居八幡神社（徳島県徳島市）他 平成15年4月</p>

94号	<p>特集：神社縁起の世界</p> <p>《口絵》東大寺八幡縁起絵《論文》神社縁起に見える信仰の諸相（村上學）二十一社記について（白山芳太郎）愛宕社の縁起と信仰（宇野日出生）岩木山の歴史と伝説（大湯卓二）箱根・伊豆山・三島の縁起とその世界（阿部美香）《近代教育の黎明》「国民道徳論」と文明の移転（二）（芳賀登）《杜の文学碑めぐり》加舎白雄（矢羽勝幸）《八幡宮紹介》小竹八幡神社（和歌山県御坊市）他 平成15年7月</p>
95号 ※	<p>特集：日本の陰陽道</p> <p>《口絵》天曹地府祭御祭典絵図《論文》神道のなかの陰陽道（中村璋八）陰陽寮と陰陽道（増尾伸一郎）祇園社と陰陽道（米井輝圭）土御門家と近世陰陽道（木場明志）天曹地府祭（小坂眞二）《近代教育の黎明》「国民道徳論」と文明の移転（三）（芳賀登）《コラム》鎌倉の「晴明石」職人歌合の陰陽師《八幡宮紹介》事任八幡宮（静岡県掛川市）他 平成15年10月</p>
96号	<p>特集：皇室と神宮神社</p> <p>《口絵》天皇・皇后両陛下御親謁・御参拝《御製》昭和天皇御製・今上陛下御製《対談》皇室と国民―葉山御用邸・神事など―（井関英男／田茂穂）《論文》御敬神の伝統（鎌田純一）皇室と神宮―御宿願と御歌（小堀邦夫）敬神と神祇歌―後花園院御製神祇歌の本質―（八木意知男）皇室と神社（沼部春友）《コラム》皇居勤労奉仕を通して皇室敬愛の念を（中野幸彦）平成大嘗祭主基斎田大田主奉仕の思い出（穴井進）皇室と柿本神社とのかかわり（中島匡博）知っているはずの知らない日本（伊豆野まこと）《連載》古社ノオト・ノオトその一・水分の神が坐す造形（齋藤盛之）《連載》近代教育の黎明「国民道徳論」と文明の移転（四）―植民地改善論と自主自由政策論を中心として（芳賀登）《八幡宮紹介》鶴嶺八幡社（神奈川県茅ヶ崎市）他 平成15年12月</p>
97号	<p>特集：東照宮の信仰</p> <p>《口絵》東照宮御影 徳川記念財団を設立して（徳川恒孝）徳川家康公の遺訓について（徳川慶朝）全国東照宮連合会の概要（稲葉久雄）《論文》江戸時代に於ける国家祭祀（辻達也）東照宮祭祀の原型（落合偉洲）東照宮の彫刻・絵画に込められた思想（高藤晴俊）名古屋東照宮祭礼の特色（奥出賢治）紀州東照宮祭礼の特徴（西川秀紀）世良田と東照宮（菊池清）鳥取東照宮と麒麟獅子舞（野津龍）個人の文書研究史 雑考―徳川家康を中心として―（小林明）《資料》全国東照宮由緒略記（高藤晴俊）《連載》古社ノオト・ノオトその二・夫婦の神が坐す距離（齋藤盛之）《連載》近代教育の黎明 国際平和協調と太平洋の架け橋（一）―むすびにかえて（芳賀登）《八幡宮紹介》飯野八幡宮（福島県いわき市） 平成16年4月</p>
98号	<p>特集：天神信仰Ⅱ 東国への展開</p> <p>《口絵》荏柄天神縁起絵巻《論文》東国における天神信仰（真壁俊信）鎌倉幕府と天神信仰（松本公一）禅と天神信仰（原田正俊）荏柄天神縁起絵巻（真保亨）荏柄天神社の社殿建築（鈴木亘）江戸時代後期の天神信仰―塙保己一の事例を通して（石田拓也）菅原道真公の本質について（押見守康）関東の古天神 谷保天満宮（津戸最）関東の古天神 荏柄天神社（田茂穂）関東の古天神 湯島天満宮の今昔（小野善一郎）関東の古天神 東宰府亀戸天満宮（大鳥居武司）長篠荏柄天神（山田慶）天神社の神紋（丹羽基二）《資料》東日本の天神様を祀る神社一覧（関東甲信越以東）《連載》古社ノオト・ノオトその三・多数座の神が坐す古社（齋藤盛之）《連載》近代教育の黎明 国際平和協調と太平洋の架け橋（二）―むすびにかえて（芳賀登）《八幡宮紹介》鹿児島神宮（鹿児島県始良郡） 平成16年7月</p>
99号	<p>特集：うらない</p> <p>《口絵》占いの民俗《エッセイ》壮大な宇宙の法則（小池真理子）《論文》鎌倉の将軍家と暦（永井晋）人の心を問う占い―歌占を中心として―（岡中正行）正月の年占―筒粥神事を中心として―（茂木栄・島田潔）《小論文》子供の遊戯とうらない（天野武）天候とうらない（木村博）諏訪湖の御渡り（宮坂清）《資料紹介》対馬の亀ト書について（加藤健司）《連載》古社ノオト・ノオトその四・一宮にならなかつた古社（齋藤盛之）《八幡宮紹介》亀ヶ池八幡宮（神奈川県相模原市）他 平成16年12月</p>

100号	<p>特集：100号を記念して</p> <p>《口絵》平成7年鶴岡八幡宮奉納ぼんぼり絵（小倉遊亀）《巻頭言》“悠久100号にあたって”（♪田茂穂）《小特集一・第一次『悠久』の思い出》白井名誉宮司に聞く（白井永二）《小特集二・悠久100号を振りかえって》『悠久』の使命（安蘇谷正彦）阿・吽の心（上杉千郷）『悠久』に寄せる感謝と期待（岡野弘彦）『悠久』百号を讃えて（工藤伊豆）春日鼎談（倉林正次）『悠久』百號達成に寄せて（小堀桂一郎）「宗教史」のない国（佐伯彰一）『悠久』と靈的生命觀（藺田稔）慶応三年牟呂大西とわが故郷と「草莽の国学」（芳賀登）百号を祝い、これからを望む（芳賀日出男）鶴ヶ丘八幡社頭の芝居（山川静夫）《小特集三・100の物語》百と100にまつわる話（戸瀬信之）漢字「百」の字形（寺井泰明）百人一首の新資料との出会い（有吉保）百味の飲食（柳原一成）長寿の祝い（竹田旦）◎『悠久』既刊号紹介（第一号～第九十九号）《八幡宮紹介》石清水八幡宮（京都府八幡市）他 平成17年3月</p>
101号 ※	<p>特集：日本神話の今</p> <p>《口絵》出雲神楽《エッセイ》日本神話とわたし（平岩弓枝）《論文》日本神話研究の四半世紀の動向（青木周平）原初の海の渦潮—オノゴロ島神話の内外—（小島瓊禮）日中の兄妹始祖神話—イザナキ・イザナミと伏羲・女媧—（繁原央）食物起源神話（伊藤清司）日本神話の他界觀（上田正昭）《小論文》日本神話についての私の今—青柴垣と瑞の八坂瓊（中村啓信）日本神話の今（菅野雅雄）日本神話の今—神話の現代的利用をめぐる—（平藤喜久子）《八幡宮紹介》若宮八幡社（愛知県名古屋）他 平成17年8月</p>
102号	<p>特集：英霊を祀る 小特集：江戸切絵図の夏</p> <p>《口絵》夏の江戸情緒《エッセイ》夏によみがえる江戸情緒（芳賀日出男）《談話》英霊を祀る 南部利昭新宮司に聞く《論文》日本人と中国人の死生觀（黄文雄）歴史と向き合う—日本とドイツを比較して（ロコバント・エルンスト）戦歿者追悼の歴史—靖國神社を中心として（大山晋吾）《小特集》江戸切絵図（編集部）花火（高見寛孝）風鈴（三田村佳子）金魚売（島田潔）佃島の盆踊り（茂木栄）《八幡宮紹介》倉田八幡宮（鳥取県鳥取市）他 平成18年1月</p>
103号	<p>特集：文庫（ふみくら）と古典の世界</p> <p>《口絵》宮内庁書陵部修補資料《エッセイ》文庫と古典文学（林望）《論文》文庫の魅力（井上宗雄）尊経閣文庫の刊行事業（菊池神一）神宮文庫の沿革について（音羽悟）宮内庁書陵部の蔵書の修補について（♪野敏武）《口絵解説》宮内庁書陵部修補資料（♪野敏武）《小論文》文庫を活かして残す—岩瀬弥助と岩瀬文庫（塩村耕）金沢文庫—鎌倉の武家文化を伝える資料群（永井晋）内閣文庫の蔵書の源流（長澤孝三）《連載》江戸の小さな神々・ビジネス街の荒ぶる魂—将門塚（清水靖子）《八幡宮紹介》壺井八幡宮（大阪府羽曳野市）他 平成18年4月</p>
104号	<p>特集：火伏せ信仰</p> <p>《口絵》日高火防祭《エッセイ》火伏せと加賀鳶（不破幸夫）《論文》火をめぐる民俗信仰—火伏せの神々の系譜—（八木透）愛宕神社の歴史と信仰—火伏を中心として—（原島知子）秋葉神社と秋葉の火祭（佐藤真人）火盗除けお犬様信仰～三峯神社の歴史と信仰～（岡本一雄）《小論文》火伏せの意匠（田村善次郎）火伏せの虎舞—宮城県加美町中新田—（岩崎真幸）《口絵解説》日高火防祭（岩崎恵）《連載》江戸の小さな神々・徳川幕府の尊崇あつかった防火、鎮火の神様—愛宕神社（清水靖子）古社ノオト・ノオトその五・畿外に坐す官幣の古社（齋藤盛之）《八幡宮紹介》八幡神社（静岡県静岡市）他 平成18年8月</p>
105号	<p>特集：手鑑</p> <p>《口絵》手鑑《エッセイ》私の手鑑（林望）《論文》古筆の賞玩と手鑑の成立（伊井春樹）手鑑の中の和歌—鎌倉時代の歌切—（別府節子）源氏物語享受資料としての古筆切（田中登）古筆学から見た手鑑—手鑑所収「香紙切」の場合（高城弘一）《小論文》古筆切の賞翫と手鑑の流行（海野圭介）分類と行列—手鑑の配列について—（佐々木孝浩）名品古筆手鑑紹介—行方不明一点を含む—（久保木秀夫）《連載》〈寄稿〉古社ノオト・ノオトその六・相嘗祭名神祭に預かる古社（齋藤盛之）江戸の小さな神々・ネット世代も惹きつける安産・子授けの神様—水天宮（清水靖子）《八幡宮紹介》津八幡宮（三重県津市）他 平成18年10月</p>

106号	<p>特集：敷島の道Ⅰ</p> <p>《口絵》宮中歌会始《エッセイ》「君が代」今昔（坊城俊周）《論文》歌謡と和歌、長歌と短歌（久保田淳）勅撰和歌集—藤原定家を軸として—（有吉保）「御製集」そして八幡神への御いのり（八木意知男）披講一声に出して読むこと—（青柳隆志）短歌創作への道—先人たちの名言を手がかりとして—（神作光一）日本社会のくたとは何か（藤井貞和）歌会始・資料《連載》〈寄稿〉古社ノオト・ノオトその七・同じ社に坐す神々の古社（齋藤盛之）江戸の小さな神々・新宿の総鎮守—花園神社—（清水靖子）《八幡宮紹介》清水八幡神社（石川県河北郡）他</p> <p style="text-align: right;">平成 18 年 12 月</p>
107号	<p>特集：敷島の道Ⅱ</p> <p>《口絵》歌合《エッセイ》短歌はなぜ一人称詩なのか（佐佐木幸綱）《論文》和歌の伝統とその未来—歌会始の歌風を中心に—（岡野弘彦）和歌と数寄（鈴木淳）香川景樹の画賛歌集『絵島廻浪』と明治の桂園派歌壇（田代一葉）和歌の家・冷泉家の成立（藤本孝一）《小論文》御巫清直の和歌（中西正幸）伊勢神官の歌事—久志本常彰について—（神作研一）和歌にみる伊勢の斎王（所京子）《和歌》初秋賛（西村尚）川曳（谷分道長）喉うるほせと（大和昭彦）思ひ（武曾豊美）《連載》〈寄稿〉古社ノオト・ノオトその八・先住神渡来神の坐す古社（齋藤盛之）江戸の小さな神々・天下祭りや勸進相撲で江戸庶民に愛された—富岡八幡宮（清水靖子）《八幡宮紹介》井波八幡宮（富山県南砺市）他</p> <p style="text-align: right;">平成 19 年 3 月</p>
108号	<p>特集：鹿島信仰</p> <p>《口絵》鯨絵にみる鹿島大明神・要石と鹿島の事触れ（エッセイ）稲の精霊の舞「三番三」（山本東次郎）《論文》東国経営の拠点としての鹿島（矢作幸雄）平安時代における鹿島神宮と藤原氏（関口力）鹿島の祭頭祭と地域社会（鹿島則良）日金山信仰圏に分布する鹿島踊（吉川祐子）《小論文》地名としての鹿島—大和国大坂山御坂の「鹿島」地名考（池田末則）鹿島流し（渡辺良正）《口絵解説》鯨絵にみる鹿島大明神・要石と鹿島の事触れ（加藤光男）《連載》江戸の小さな神々・学問の神様—菅原道真の心を伝える—湯島天満宮（清水靖子）《八幡宮紹介》植槻八幡神社（奈良県大和郡山市）他</p> <p style="text-align: right;">平成 19 年 4 月</p>
109号	<p>特集：茶</p> <p>《口絵》慕帰絵（エッセイ）昨日と今日のはさまで（結城孫三郎）《論文》生活文化としての茶—茶における日常性と非日常性をめぐって（村井康彦）チャの木とそのルーツを探る（橋本実）番茶と抹茶が共有した世界（中村羊一郎）『喫茶往来』と茶会の成立（田中仙堂）《小論文》茶の種類と製法（岩浅潔）「茶」の語源とその意味するものについての小考（久保田裕道）《コラム》現代の闘茶（大山泰成）《寄稿》武家の古都八百年に果たした鶴岡八幡宮（寺）の役割（吉居一朗）《連載》鶴岡八幡宮上宮発見の墨書等について・その一（浪川幹夫）《八幡宮紹介》八幡神社（宮城県登米市）他</p> <p style="text-align: right;">平成 19 年 7 月</p>
110号	<p>特集：生花</p> <p>《口絵》夏秋草図屏風（エッセイ）私は今・・・（川田功子）《論文》いけばなの起源（由水幸平）花の信仰的意義—依代と供花—（菊池義裕）花を意匠化する日本の歴史（矢部良明）心とかたち—いけばなの辿った道—（澁谷千早）染殿の桜と枕草子の花瓶の桜（元吉進）《小論文》率川神社三枝祭とご神花ささゆり（南博）《コラム》鎌倉の華まつり（小峰敏司）《連載》鶴岡八幡宮上宮発見の墨書等について・その二（浪川幹夫）《八幡宮紹介》北澤八幡神社（東京都世田谷区）他</p> <p style="text-align: right;">平成 19 年 10 月</p>
111号	<p>特集：香</p> <p>《口絵》蘭奢待（黄熟香）（エッセイ）いのちなりけり（青木生子）《論文》香道の成立（神保博行）香木の伝来—名香の緒相—（矢野環）王朝物語の薫香（尾崎左永子）鎌倉時代の香（松原睦）《小論文》祭りの匂い（中島誠一）香水あれこれ（嵐義人）《随想》香道者としての生き方（神保博行）《コラム》麝香（足立尚計）死者供養のなかの香—日本における香の歴史—（中江庸）《連載》《八幡宮紹介》八剣八幡神社（千葉県木更津市）他</p> <p style="text-align: right;">平成 20 年 5 月</p>

112号	<p>特集：厄除け</p> <p>《口絵》厄神舞（エッセイ）静謐な勝負師（内館牧子）《論文》厄と厄神（大島健彦）正月行事と厄神（田中宣一）平安時代と文学における厄除け—寺社参詣を中心に—（藤本勝義）今に生きる厄年・年祝い（佐々木美智子）厄と大祓え（中村幸弘）《コラム》厄除けの源流—陰陽道の呪符・呪術—（戸矢学）《口絵解説》厄神舞（財前司一）《寄稿》春の若木の生命の木（北野晃）《連載》《八幡宮紹介》西郷八幡神社（長崎県雲仙市）他</p> <p>平成20年8月</p>
113号 ※	<p>特集：雅楽と舞楽Ⅰ</p> <p>《口絵》鶴岡放生甲會職人歌合（楽人・舞人）（エッセイ）音のたのしみ（久邇邦昭）《論文》雅楽の源流について（遠藤徹）王朝文化のなかの雅楽（蒲生美津子）廃絶楽所のついて（荻美津男）雅楽の史料をめぐって（福島和夫）雅楽と神楽（東儀兼彦）《資料》明治撰定譜とその周辺（東儀兼彦）伝説の名手たち（嶋津宣史）《連載》《八幡宮紹介》西嶋宮八幡神社（山梨県南巨摩郡身延町）他</p> <p>平成20年11月</p>
114号 ※	<p>特集：雅楽と舞楽Ⅱ</p> <p>《口絵》舞楽絵巻（エッセイ）自然と人間と（徳川恒孝）《論文》雅楽の地方への伝播について（荻美津男）舞楽面の遺品について—陵王面を中心に—（田邊三郎助）奥羽の舞楽—谷地の林家舞楽の変遷と現状（菊地和博）遠州の舞楽（田鍬智志）国分寺の舞楽—隠岐国分寺蓮華会舞—（茂木栄）稚児舞（山路興造）《コラム》巖島神社舞楽抜頭の一子相伝について（野坂元良）雅楽の魅力—特にその「音色」について—（中島宝城）大日靈貴神社大日堂の舞楽（加藤健司）天津神社舞楽（加藤健司）越中射水、下村加茂社の稚児舞（加藤健司）《連載》《八幡宮紹介》荻窪八幡神社（東京都杉並区）他</p> <p>平成21年1月</p>
115号	<p>特集：和菓</p> <p>《口絵》富山の売菓（エッセイ）古典芸能の教育法（藤田洋）《論文》和菓の歴史（中西準治）売菓の諸相（松井寿一）大雄山最乗寺（道了尊）の菓「大雄丸」（越川次郎）上代古典と和菓—神話にみる医薬—（松本直樹）菓草と図譜（岡田稔）《小論文》吉宗と正伯・政勝（吉岡信・小倉豊）花を鎮めるといふこと（鹿谷勲）《口絵解説》富山の売菓（芳賀日出男）《連載》《八幡宮紹介》川越八幡神社（埼玉県川越市南通町）他</p> <p>平成21年4月</p>
116号 ※	<p>特集：狛犬</p> <p>《口絵》ゼ〜ンブこれ、狛犬《エッセイ》祭りの男は美しい（三隅治雄）《論文》神社と狛犬—狛犬に見る国民性—（上杉千郷）獅子狛犬の源流（伊東史朗）獅子狛犬の様式と展開（伊東史朗）狛犬とゆく言語学ツアー（佐藤貴裕）守り神としてのシーサー（大城學）《小論文》加賀の飛翔獅子（相古誠一）東照宮と狛犬（落合偉洲）《コラム》狛犬と私（三遊亭円丈）陶磁の狛犬について（青木本吉）《連載》《八幡宮紹介》府中八幡神社（広島県府中市出口町）他</p> <p>平成21年5月</p>
117号	<p>特集：日本の庭Ⅰ 神と斎庭</p> <p>《口絵》松尾大社の松風苑《エッセイ》梅雨に煙る日本の山水（栗田勇）《論文》「には（庭・斎庭）」語義語源雑記（中村幸弘）芸能舞台としての「庭」—宮中の御神楽を中心に—（山路興造）《口絵解説》松尾大社の松風苑（尾崎俊廣）《小論文》盆栽と自然（坂本新太郎）《コラム》鉢の木伝説（三浦勝男）大宮盆栽町の成立と発展（山田登美男）宮中の春飾りと盆栽（久能靖）《連載》《八幡宮紹介》安田八幡宮（新潟県阿賀野市保田）他</p> <p>平成21年8月</p>
118号 ※	<p>特集：日本の庭Ⅱ 仏の庭</p> <p>《口絵》重文 称名時絵図《エッセイ》小さな狭い土地（黒井千次）《論文》神の庭から仏の庭へ（伊藤ていじ）『作庭記』の世界（飛田範夫）浄土庭園の思想とかたち（進士五十八）池庭から枯山水へ（小野健吉）禅の庭の構想と思想（枅野俊明）《小論文》和歌と作庭（内藤まりこ）《コラム》造園業者の草木観と草木供養（高木大祐）《連載》《八幡宮紹介》海上八幡宮（千葉県銚子市柴崎町）他</p> <p>平成21年12月</p>

119号	<p>特集：北海道の拓殖と社</p> <p>《口絵》拓殖期北海道の社《エッセイ》心の故郷—自然（秋山駿）《論文》北海道の神社創建と展開—「神社明細帳」を通して—（茂木栄）開拓使と北海道神宮の創祀（吉田源彦）北海道の集落小祠—『北海道神社庁誌』の未公認社を中心にして（前田孝和）開拓村と切株・棒杭神社（村田文江）北海道への稲荷勧請—伏見稲荷神社からの分霊を中心として—（青木伸剛）幕末期のまつりに見るアイヌと和人の交流（池田貴夫）《小論文》北方領土の神社（前田康）「義経神社」の創祀について（北嶋義三）創造される伝統—北海道文化研究への提言—（馬淵悟）《コラム》御祭神の選び方（山田一孝）北海道の菅江真澄（松山修）《連載》《八幡宮紹介》小野八幡宮（兵庫県神戸市中央区）他</p> <p style="text-align: right;">平成22年3月</p>
120号	<p>特集：月読命信仰</p> <p>《口絵》かぐやから見た月《エッセイ》月が作り出すドラマ（小池田洋子）《論文》日本神話のなかの月読命（菅野雅雄）月読命信仰の展開（大和岩雄）伊勢の月読命信仰（石垣仁久）月をつくる（松原武実）月の歌（久保田淳）《小論文》絵にみる月（武田恒夫）月山信仰（岩崎真幸）《コラム》月にまつわる雅楽（南惣一郎）《連載》《八幡宮紹介》有磯正八幡宮（富山県高岡市）他</p> <p style="text-align: right;">平成22年5月</p>
121号 ※	<p>特集：応神天皇千七百年祭</p> <p>《口絵》木造 誉田別尊坐像《エッセイ》王統の画期としての應神朝（上田正昭）《論文》応神天皇の時代（和田萃）『古事記』に見る応神天皇像（菅野雅雄）『日本書紀』の応神天皇像（谷口雅博）「應神天皇の誕生」について—半島征討伝承を中心に—（吉井巖）宇佐の祭神としての応神天皇（江頭慶宣）応神天皇誕生伝承—筑・の神社縁起から—（吉田修作）八幡神説話におけるホムダワケノミコト—八幡宮愚童訓の周辺を視座において—（新間水緒）応神天皇陵（外池昇）図像から見た応神天皇（鳥羽重宏）応神天皇にかかわる研究史と現状について（星野良作）《連載》《八幡宮紹介》宇佐神宮（大分県宇佐市南宇佐）他</p> <p style="text-align: right;">平成22年9月</p>
122号	<p>特集：神酒Ⅰ</p> <p>《口絵》神酒口《エッセイ》お花見（村田淳一）《座談会》「神酒」（佐古一洸／椋山林継／藤居鐵也）《論文》「酒」の語源と語義（寺井泰明）白酒・黒酒のこと（加茂正典）万葉集の酒の歌—大伴旅人「讃酒歌十三首」の構成と構想—（近藤信義）王朝時代の酒文化（今関敏子）《口絵解説》神酒口（岩崎香子）《小論文》酒の神としての大神社（後藤輝史）賀茂下上社と御酒（新木直安）春日祭の酒（岡本彰夫）小國神社の古式神酒（打田文博）出雲大社の神事の酒造り（千家尊祐）《寄稿》松花堂昭乗と木下長嘯子の交友（矢崎格）《連載》《八幡宮紹介》若狭小浜八幡神社（福井県小浜市男山）他</p> <p style="text-align: right;">平成22年11月</p>
123号	<p>特集：神酒Ⅱ</p> <p>《口絵》祭りと酒《エッセイ》神社（太田和彦）《論文》祭りと酒（岩井宏實）頭屋と酒（神崎宣武）季節の行事と酒—伝統とは何か？守りたいもの、伝えたいものがありますか？—（新谷尚紀）盃事の民俗（板橋春夫）畑作と酒—収穫祝いの麦酒・予祝の稗酒—（吉川祐子）《小論文》杜氏の信仰（藤田千恵子）酒造り歌（長野隆之）泡盛以前の酒—口●み酒と神酒—（萩尾俊章）どぶろく祭り（渡辺良正）《資料》主な「酒」の名称を持つ祭りと伝承する神社全国一覧（茂木栄）《口絵解説》祭りと酒（渡辺良正）《連載》《八幡宮紹介》龍造寺八幡宮（佐賀県佐賀市白山町）他</p> <p style="text-align: right;">平成22年12月</p>
124号	<p>特集：巨樹信仰</p> <p>《口絵》古の人々は巨樹に何を感じたのか《エッセイ》私の樹木信仰（金子兜太）《短歌》鶴岡八幡宮「大銀杏」献歌（坊城俊周・田茂・尾崎左永子・前川佐重郎・香山静子）《論文》巨樹の信仰—総論的な立場から（牧野和春）巨樹の古代（居駒永幸）口承文藝における巨樹の信仰（大島建彦）柱と神道—自然崇拜から国家神道へ—（三橋正）現代の巨木信仰—暮らしの中の巨木—（平野秀樹）《口絵解説》巨樹信仰の源（松本滋）《短歌》源實朝追慕（岡野弘彦）《小論文》紀の國の原点 木の神・緑化の神「五十猛命」（奥重視）建築資材としての大径木（山本博一）《記録》鶴岡八幡宮大銀杏倒木の記録《コラム》八幡さまと巨樹あれこれ（岩崎香子）《連載》《八幡宮紹介》放生津八幡宮（富山県射水市）他</p> <p style="text-align: right;">平成23年3月</p>

125号	<p>特集：鯨の文化誌</p> <p>《口絵》西海捕鯨図《エッセイ》歌枕に思う（永田和宏）《論文》日本人と捕鯨文化（小松正之）捕鯨—最後に産業化された史上最大の狩猟業（山下渉登）エビス神としての鯨（立平進）三重の鯨船行事と捕鯨（野村史隆）鯨塚・鯨供養塔（松崎憲三）食用以外の鯨の用途について（中園成生）《資料紹介》勇魚文庫の鯨関係史料（細田徹）《小論文》鯨の錦絵管見—北斎・国芳描く鯨図を中心に、鯨の図像形成を求めて—（岩切信一郎）古典にみる鯨（池田三枝子）鯨の歌（成田守）鯨の玩具（細田徹）《コラム》クジラの句碑、歌碑（岩崎香子）《連載》《八幡宮紹介》鰐鳴八幡宮（山口県山口市上小鯖）他 平成23年9月</p>
126号	<p>特集：神の鳥</p> <p>《口絵》神の鳥《エッセイ》鳥の歌（久保田淳）《論文》鳥の神話・物語—仁徳天皇（大雀 オホサザキ）を中心として—（吉田修作）鳥たちのカタログ—記・紀にみる仁徳天皇像をめぐる—（呉哲男）鳥の声と古代和歌—ホトトギス詠をめぐる—（近藤信義）鳥の神事芸能（中村茂子）考古学から見た鳥と古代の信仰（笹生衛）《コラム》鳥居の起源と古代精神文化（萩原秀三郎）八咫鳥と熊野信仰（九鬼家隆）鳩と八幡信仰（宮崎博生）白鳥と日本武尊（小椋一葉）《連載》《八幡宮紹介》飯詰八幡宮（青森県五所川原市）他 平成23年12月</p>
127号	<p>特集：墨の文化誌</p> <p>《口絵》徳川美術館所蔵の唐墨《エッセイ》子供神主（綿貫民輔）《鼎談》第一部 墨のあれこれ—綿谷正之氏に聞く—（綿谷正之）第二部「墨の色」（綿谷正之/花山院弘匡/田茂・）《論文》墨の起源と歴史（田恵二）木簡と墨書土器に見る古代の信仰（笹生衛）奈良墨（岡本彰夫）《コラム》墨の基礎知識（綿谷基）《口絵解説》徳川美術館の唐墨コレクション（四辻秀紀）《連載》《八幡宮紹介》八幡神社（長野県佐久市）他 平成24年7月</p>
128号	<p>特集：むすひの神信仰</p> <p>《口絵》飯田の元結と水引《エッセイ》三・一—は日本文化の価値を問う（小島美子）《論文》むすひということとその拡がり（毛利正守）国学者の論じたムスヒ信仰（西岡和彦）鎮魂のなかのムスヒとムスビ（渡辺勝義）維新时期における「造化神」観—門脇重綾の造化神論・幽顕論をめぐる—（武田秀章）宮中祭祀の中のむすひの神（小平美香）《コラム》石上神宮の鎮魂祭について（森正光）《口絵解説》飯田の元結と水引（関島芳一）《連載》《八幡宮紹介》田井八幡宮（岡山県玉野市田井）他 平成24年8月</p>
129号	<p>特集：天変地異・神仏と災害Ⅰ</p> <p>《口絵》天変地異 近世以降の資料にみる地震と海嘯《エッセイ》鎮守の森と鎮守の海（畠山重篤）《特別寄稿》天災・人間・怒り・祈り（岡野弘彦）《論文》『古事記』神話の中の災害—災いをもたらすモノ—（谷口雅博）上代の災害観と神仏（細井浩志）中古の災害観と神仏（安田政彦）中世の災害観と神仏（水野章二）近世の災害観と神仏（北原糸子）《寄稿》災害と神社（佐々木美智代）《口絵解説》天変地異 近世以降の資料にみる地震と海嘯《連載》《八幡宮紹介》廣八幡神社（和歌山県有田郡広川町）他 平成25年1月</p>
130号	<p>特集：天変地異・神仏と災害Ⅱ</p> <p>《口絵》平成の災害、東北地方太平洋沖地震に関する天皇陛下のおことば《エッセイ》礼儀知らずの高齢者（佐野眞一）《特別寄稿》神社と災害—阪神・淡路大震災の体験をふまえて—（加藤隆久）《論文》神社立地と災害について—東日本大震災を経験して—（佐藤一伯）伊勢神宮外宮の被害と一三六一年（康安元年）の地震（奥野真行）奉幣と災害—災害と古代国家の祈り—（三橋正）《小論文》平成の災害と皇室（松本滋）岩手沿岸地方における祭礼・神事芸能と復興（宮城県）（笠原信男）被災地における祭礼・神事芸能と復興—福島県の状況—（佐治靖）《口絵解説》平成の災害（松本滋）《寄稿》災害と神社（工藤祐允）《連載》《八幡宮紹介》上山八幡宮（宮城県本吉郡南三陸町）他 平成25年2月</p>
131号	<p>特集：賀茂信仰Ⅰ</p> <p>《口絵》賀茂社の社殿—賀茂別雷神社〔上賀茂神社〕と賀茂御祖神社〔下鴨神社〕—《エッセイ》想像力とアニミズム（蜂飼耳）《論文》賀茂信仰と上・下賀茂社（宇野日出生）記紀・風土記と賀茂氏—城の賀茂・山城の賀茂—（丸山顯徳）齋院（榎村寛之）王朝文学と賀茂神社—『古今和歌集』と『源氏物語』を中心として—（針本正行）「カモ」信仰の分類（新木直安）《小論文》賀茂の遷宮（藤澤彰）鴨一族における鴨長明（小林一彦）《口絵解説》賀茂社の社殿—賀茂別雷神社〔上賀茂神社〕と賀茂御祖神社〔下鴨神社〕—</p>

	(山田岳晴)《連載》《八幡宮紹介》高松八幡宮(山口県熊毛郡田布施町)他 平成25年7月
132号	特集:賀茂信仰Ⅱ 《口絵》賀茂の神饌《エッセイ》国民栄誉賞に想う(福田富昭)《論文》賀茂別雷神社の年中祭祀(藤木保誠)賀茂御祖神社の年中祭祀(嵯峨井建)勅祭・賀茂祭(宇野日出生)《小論文》莊園へ移入した賀茂信仰—富山県 下村・加茂神社—(野上克裕・松山充宏)賀茂那備神社とその祭祀(茂木栄)《資料》「カモ」社—一覧—神話と莊園に関わる「カモ」社を中心として—(新木直安)《口絵解説》賀茂の神饌(加瀬直弥)《連載》《八幡宮紹介》大井俣窪八幡神社(山梨県山梨市)他 平成25年8月
133号	特集:延喜式の布 《口絵》神社本庁蔵・殿内調度及び御神宝裂地資料について《エッセイ》「国宝 大神社展」をふりかえって(池田宏)《論文》『延喜式』の「布」の種類(竹内淳子)幣帛と祓えの料としてのヌサ(茂木貞純)大神宮式と紡績具(石垣仁久)伊勢神宮の神衣祭(藤森馨)延喜式神名帳に見る織物の神(嵐義人)《小論文》『延喜式』にみる染織(藤井健三)延喜式の度量衡(新井宏)《口絵解説》神社本庁蔵・殿内調度及び御神宝裂地資料について(神保郁夫)《連載》《八幡宮紹介》釧路八幡神社(北海道釧路郡釧路町)他 平成25年10月
134号	特集:風土記の神社と社 《口絵》写真譜 風土記《エッセイ》くらげなす漂える(山名隆弘)《論文》風土記撰修について(中村啓信)神・制度からみた出雲の特殊性(瀧音能之)常陸(矢作幸雄)伊弉大神—播磨国風土記の紙と社(飯泉健司)『豊後国風土記』直入郡球軍郷「臭泉」の水神—漢籍の知と神話的思考の融合—(山田純)肥前風土記の神と社(吉田修作)《連載》《八幡宮紹介》男山八幡神社(福島県南相馬市鹿島区)他 平成25年7月
135号	特集:伊勢参詣記 《口絵》伊勢太々神楽講図会《エッセイ》温かき内院(鳥居禮)《論文》旅日記にみる江戸の旅(金森敦子)『伊勢参詣(宮)記』にみえる芸能(岡田芳幸)関東の伊勢参宮—伊勢参詣記を中心に—(杉山正司)中世末期、九州からの伊勢参宮—御師が記した参宮の諸相—(久田松和則)『伊勢参宮案内記』にみる伊勢参宮構造の近世化—修験的参宮から御師的参宮へ—(千枝大志)伊勢参詣曼荼羅について—三井文庫本を中心に—(清水実)《口絵解説》伊勢太々神楽講図会(加藤健司)《連載》《八幡宮紹介》八幡竈門神社(大分県別府市)他 平成26年5月
136号	特集:宗像信仰 《口絵》神体島沖ノ島—祭祀遺跡と神宝—《エッセイ》「聖なる島へ」(安部龍太郎)《論文》祭祀遺跡からみた宗像信仰(小田富士雄)唐三彩と沖ノ島—宗像大神にささげられた唐からの贈り物—(弓場紀知)大島御嶽山遺跡(福嶋真貴子)律令時代の宗像信仰(亀井喜一郎)中世宗像社の信仰と祭祀(川窪奈津子)宗像大社の年中行事(森弘子)《コラム》宗像と黄金(砂場一明)沖ノ島上陸記(今井康裕)《口絵解説》神体島沖ノ島—祭祀遺跡と神宝—(宗像大社文化財管理事務局)《レポート》宗像海人族の足跡をたどって(楠本正)《連載》《八幡宮紹介》長尾八幡宮(山口県大島郡周防大島町)他 平成26年7月
137号	特集:かくれキリシタン 《口絵》生月島かくれキリシタンの聖画[お掛け絵]《エッセイ》量子力学と神道(山村明義)《論文》かくれキリシタンとは何か(中園成生)かくれキリシタンの信仰と年中行事(中園成生)かくれキリシタンと神道(森浩明)ラテン語聖歌《クレド(信仰宣言)》から箏曲《六段》へ(皆川達夫)聖オラショと中世歌謡(永池健二)《小論文》納戸に祀る神(中園成生)かくれキリシタンの聖画考(児嶋由枝)《レポート》かくれキリシタン村落の変容と現状—長崎県上五島地方のいま—(吉村政博)《口絵解説》生月島かくれキリシタンの聖画[お掛け絵](中園成生)《連載》《八幡宮紹介》八幡神社(静岡県湖西市)他 平成26年9月

138号	<p>特集：時を計る</p> <p>《口絵》家康公洋時計《エッセイ》幾度目かの再会～「家康公の時計」との不思議なご縁（山田五郎）《論文》古事記神話の「時計の神」（菅野雅雄）日本人の時刻概念—不定時法と定時法—（湯浅吉美）人類の英知を結集させた古代・中世の時計（織田一朗）中世末から近世初めの日本の機械時計—西洋機械時計の伝来と和時計製作技術の確立—（佐々木勝浩）近世の和時計とからくり（山田和人）《口絵解説》家康公洋時計（落合偉洲）《コラム》江戸庶民の生活と時の鐘（浦井祥子）時計と王侯貴族（アキツ・デービッド・マーク）《連載》《八幡宮紹介》八幡宮神社（長崎県対馬市）他 平成26年9月</p>
139号 ※	<p>特集：古辞書</p> <p>《口絵》新訳華嚴経音義私記《口絵解説》新訳華嚴経音義私記（沖森卓也）《エッセイ》やせ蛙（出久根達郎）《論文》古辞書とは（倉島節尚）上代の辞書—『新字』は存在したか—（沖森卓也）中古の辞書—倭名類聚抄—（飯田晴巳）中古の辞書—類聚名義抄—（金子彰）中古の辞書—色葉字類抄—（山本真吾）中世の辞書—下学集・和玉篇・聚分韻略・鹿袋・鹿添壺囊抄—（中山・朗）近世の辞書—節用集—（木村一）近世の辞書—倭訓栞・雅言集覧・俚言集覧—（木村義之）《コラム》名語記—鎌倉時代の奇書・珍書—（中山・朗）見出語の配列—部首順・いろは順・五十音順—（倉島節尚）《連載》《八幡宮紹介》海神社—木坂の八幡さま—（長崎県対馬市木坂）他 平成27年3月</p>
140号	<p>特集：言霊信仰</p> <p>《口絵》宮城の正月きりこ《エッセイ》戦後70周年について考える（楠本祐一）《論文》古代の感情—「ことたま」巡り—（藤井貞和）記紀にみる言霊（吉田修作）万葉歌にみる言霊と儀礼—憶良「好去好來歌」をめぐる（近藤信義）浮遊し飛来する言と霊—宮廷女房文学論—（関根賢司）説話にみる言霊—民俗学の視点を絡めて—（石井正己）奄美・沖縄にみる言霊（大胡太郎）和歌にみる言霊—富士谷御杖の言霊論を起点に—（森朝男）《口絵解説》宮城の正月きりこ（工藤祐允）《連載》《八幡宮紹介》烏帽子山八幡宮（山形県南陽市赤湯）他 平成27年6月</p>
141号	<p>特集：神殿の発生</p> <p>《口絵》春の獅子《エッセイ》匂と薫（尾崎左永子）《論文》「神社」の成立をめぐる研究視座と論点—いわゆる「古代神殿論」の評価を中心として—（錦田剛志）神殿の成立と神観・祭祀（笹生衛）祭祀と神殿の間（櫻井敏雄）官社制前の神支配—神殿論のと関わりで—（丸山茂）神殿の発生—建築史の立場から—（三浦正幸）《小論文》若宮祭御旅所行宮考（岡本彰夫）《口絵解説》春の獅子《連載》《八幡宮紹介》宝八幡宮（大分県玖珠郡九重町大字松木）他 平成27年9月</p>
142号	<p>特集：神社建築の空間</p> <p>《口絵》夏の龍蛇《エッセイ》それぞれ（星野椿）《論文》総論 本殿の内部空間の特質（三浦正幸）古代の神社本殿の内部空間（嵯峨井建）神体を奉安する玉殿（山田岳晴）神社建築に見る近代—官国幣社の社殿を中心に—（藤岡洋保）神社の礼拝空間—拝殿・幣殿と廻廊・中門—（藤澤彰）《口絵解説》夏の龍蛇《連載》《八幡宮紹介》涼ヶ岡八幡神社（福島県相馬市坪田）他 平成27年10月</p>
143号	<p>特集：外国人が作った日本語辞書</p> <p>《口絵》『ラポ日対訳辞書』《口絵解説》『ラポ日対訳辞書』（倉島節尚）《エッセイ》「不食」を通じて見えてきた世界（榎木孝明）《論文》外国人の日本語研究—辞書・文法書—（倉島節尚、年表：木村一）『落葉集』（山本真吾）『長崎版日葡辞書』とパジェス『日仏辞書』（山田潔）W・H・メドハースト『英和和英語彙』（陳力衛）S・R・ブラウン『会話日本語』（常盤智子）J・C・ヘボン『和英語林集成』（木村一）E・M・サトウ、石橋編『英和口語辞典』—もう一つの近代日本語資料—（村山昌俊）《小論文》山田美妙『日本大辞典』の外来語—国語辞書から見た外国語—（木村義之）《コラム》キリシタンと日本語（沖森卓也）外国語による日本語文法研究（中山・朗）ローマ字綴りの変遷（倉島節尚）《連載》《八幡宮紹介》新庄八幡宮（岡山県倉敷市児島阿津）他 平成27年11月</p>

144号	<p>特集：古代北部九州の海の信仰</p> <p>《口絵》海の正月《エッセイ》私はこうして生きている。(蛭子能収)《論文》海と古代国家の成立—一つの仮説—(千田稔)日本神話と海洋性(菅野雅雄)宗像三女神と住吉三神—比較神話学的視点から—(平藤喜久子)万葉集・風土記にみる北部九州の海彼の信仰—文学宮為と伝承、神仙への憧憬—(城崎陽子)北部九州の海の祭り(森弘子)《資料》北部九州(福岡県・佐賀県・長崎県)及び山口県鎮座 海神の社一覧(茂木栄)《連載》《八幡宮紹介》平塚八幡宮(神奈川県平塚市浅間町)他 平成28年3月</p>
145号	<p>特集：古代後の世界</p> <p>《口絵》中国少数民族の歌垣《エッセイ》激減する国民による文化財への大打撃(デービッド・アトキンソン)《論文》旅のことば(古橋信孝)恋のことば(多田一臣)時節のことば—『万葉集』の場合—(梶川信行)永別のことば(森朝男)地方のことば(居駒永幸)信仰のことば(斎藤英喜)沖縄のことば—神歌から、神の眼差し—(島村幸一)音とことば—地名起源譚における「訛」の認識(近藤信義)《コラム》「門出」のことば(石川久美子)一人歩きする恋「恋」「思ひ」「心に乗る」(荻野了子)馬を詠むこと「赤駒」「黒馬(駒)」「青馬(駒)」(鈴木雅裕)永別のことば「泣く・哭く」(高桑枝実子)地方のことば—馬と駒—(山口直美)信仰のことば「ゆ(接頭辞)」(山崎健太)沖縄のことば「げらへる」(綱川恵美)西郷信綱の「音」—「音」という方法の再評価—(坂根誠)《口絵解説》中国少数民族の歌垣《連載》《八幡宮紹介》宮尾八幡宮(山口県宇部市西万倉)他 平成28年4月</p>
146号	<p>特集：古代瀬戸内海の信仰</p> <p>《口絵》大山祇神社の古鏡《エッセイ》父の背中(山谷えり子)《論文》古代の瀬戸内海—苦難の国土軸—(千田稔)万葉集にみる瀬戸内(菊地義裕)瀬戸内のひとびとの生活に息づく大山祇神社への信仰(松田睦彦)八十嶋祭(加茂正典)仁徳記53番歌と国生み神話(谷口雅博)瀬戸内漁民の信仰—古代につながる漁民の信仰—(印南敏秀)《口絵解説》大山祇神社の古鏡《連載》《八幡宮紹介》草津八幡宮(広島県広島市西区田方)他 平成28年8月</p>
147号	<p>特集：古代若狭の海の信仰</p> <p>《口絵》若狭国内神名帳《エッセイ》時空を超えて(宮内淳)《論文》若狭—長生と海—(千田稔)『古事記』『日本書紀』の「角鹿」の位置付け(谷口雅博)若狭彦・若狭姫神の神像(嵯峨井建)御食国若狭(舘野和己)古代における日本海交流(酒寄雅志)《連載》《八幡宮紹介》鴻八幡宮(岡山県倉敷市児島下の町)他 平成28年10月</p>
148号	<p>特集：白山信仰</p> <p>《口絵》白山曼荼羅図《口絵解説》白山曼荼羅図(福原敏男)《エッセイ》眺望(原和子)《対談》白山へのあこがれ—白山開山—三〇〇年によせて—(村上和臣/木崎馨山)《論文》白山信仰の成立と展開(橋本政宣)加賀馬場の信仰(東四柳史明)越後馬場の信仰(平泉隆房)美濃馬場の信仰(梶山林継)白山信仰の祭礼と芸能—近世都市における展開—(福原敏男)《分布地図》全国に分布する白山信仰と各県の白山神社の神社数《小論文》水源としての白山—歴史地理学の立場から—(筒井裕)白山信仰の拡がり—藤原秀衡を例とし—(若宮多門)《連載》《八幡宮紹介》横山八幡宮(岩手県宮古市宮町)他 平成29年3月</p>
149号	<p>特集：軍記物語 I</p> <p>《口絵》紙本著色前九年合戦絵詞(国立歴史民俗博物館所蔵)『前九年合戦絵詞』解説(日下力)《エッセイ》能面と日本文化—日本と西欧の「個性」の捉え方—(水谷靖)《論文》軍記物語とは何か(日下力)覚一本『平家物語』の政治学(兵藤裕己)軍記物語と「武士道」の間(佐伯真一)和歌世界との回路—『平家物語』巻七「忠度都落」の創作性と改編—(櫻井陽子)東国の神祇歌を読む—軍記物語を通して(平田英夫)『八幡愚童訓』の幻影—乾珠・満珠説話を中心に—(鈴木彰)四爪鉄錨が生んだ謡曲《碇潜》(岡田三津子)画像としての軍記物語(石川透)《連載》《八幡宮紹介》志岐八幡宮(熊本県天草郡苓北町志岐)他 平成29年5月</p>

150号	<p>特集：吾妻鏡</p> <p>《口絵》『吾妻鏡』の肖像・後北条市本『吾妻鏡』《エッセイ》悠久百五十号にあたって（田茂穂）《インタビュー》神道の国際理解を求めて（田茂穂）《論文》『吾妻鏡』の成立とその構成および伝来をめぐって（井上聡）『吾妻鏡』と御成敗式目（永井晋）源頼朝の神宮崇敬とその祠官達（多田實道）『吾妻鏡』と徳川家康（小和田哲男）『吾妻鏡』と『愚管抄』（尾崎勇）『吾妻鏡』に描かれた鶴岡八幡宮寺（八幡義信）『吾妻鏡』の文体 変体漢文という記述方法について（山本真吾）《口絵解説》後北条氏本『吾妻鏡』【『悠久』既刊号紹介〈第一〇〇号～第一五〇号〉】《連載》《八幡宮紹介》香椎宮（福岡市東区香椎）他 平成29年10月</p>
151号	<p>特集：軍記物語Ⅱ</p> <p>《口絵》絵で楽しむ平家物語（絵本【國學院大學図書館蔵奈良絵本平家物語】）《口絵解説》絵で楽しむ軍記物語（松尾葦江）《エッセイ》悠久の中今（涼恵）《論文》諸本論から文学史へ—多様性の時代代表文学—（松尾葦江）『将門記』と坂東平氏—不戦を尊ぶ文学が描いた武人—（佐倉由泰）軍記物語の成立（野中哲照）異端の軍記物語—慈光寺本『承久記』受容—『太平記』を利用した家伝の作成（和田琢磨）新田岩松家旧蔵の異本『鎌倉大草紙』と上杉禅秀の乱—「東国」の軍記・軍記物語—（田口寛）戦国軍記から実録物へ—脇坂家の貂の皮をめぐって—（山上登志美）武家と館（菱沼一憲）《連載》《八幡宮紹介》浜松八幡宮（静岡県浜松市中区八幡町）他 平成29年12月</p>
152号	<p>特集：妙見信仰</p> <p>《口絵》キトラ古墳天文図（奈良文化財研究所）《口絵解説》キトラ古墳天文図（若杉智宏）《エッセイ》日本犬往時片片（卯木照邦）《論文》妙見信仰—“星”の日本文化論—（佐野賢治）妙見信仰とその造像（林温）秩父大宮妙見宮（甲田豊治）千葉氏と妙見信仰—妙見縁起の成立とその像容の変化について—（丸井敬司）八代妙見社（安田宗生）相馬氏と妙見信仰（二本松文雄）大内氏と妙見信仰（平瀬直樹）《連載》《八幡宮紹介》御器所八幡宮（愛知県名古屋市昭和区御器所）他 平成30年2月</p>
153号	<p>特集：明治の宮廷文化Ⅰ</p> <p>《口絵》明治宮殿《エッセイ》装束の「聖地」鶴岡八幡宮（八條忠基）《論文》明治宮廷の年中行事（田中潤）明治宮殿の造営とみやび（黒川廣子）明治期の御歌所（宮本蒼士）雅楽と伶人の明治時代（遠藤徹）明治天皇の食卓—晩餐会と日常食—（刑部芳則）明治天皇の「勲章外交」と宮廷文化の国際性（ジョン・グリーン）《小論文》有栖川御流—明治期における皇室の書との関係から—（田中潤）《連載》《八幡宮紹介》柏原八幡宮（兵庫県丹波市柏原町）他 平成30年5月</p>
154号	<p>特集：明治の宮廷文化Ⅱ</p> <p>《口絵》学習院大学史料館蔵近代の大礼装束《エッセイ》披講と私（堤公長）《論文》明治天皇の儀礼空間—明治宮殿と二條離宮—（山崎鯛介）歌御会始と披講（園池公毅）明治時代の蹴鞠（池修）美は細部に宿る—明治神宮の収蔵品—（黒田泰三）明治天皇・昭憲皇太后の御装束（鈴木真弓）御裳捧持（亀井茲基）明治宮殿の服装—表と奥の二面性—（刑部芳則）《口絵解説》学習院大学史料館蔵近代の大礼装束について（田中潤）《連載》《八幡宮紹介》二川八幡神社（愛知県豊橋市二川町東町）他 平成30年8月</p>
155号	<p>特集：荒神信仰と竈神</p> <p>《口絵》カマド神を祀る（芳賀ライブラリー）《エッセイ》かつおぶし（柳原一成）《論文》荒神信仰と竈神（飯島吉晴）竈神と土製支脚（内田律雄）中世芸能と荒神信仰—中世神楽の現場から—（斎藤英喜）荒神信仰と曼荼羅（高橋悠介）愛染明王の名をもつ三宝荒神像—秋田・道川神社像をめぐって—（石川知彦）東北地方の竈神（小谷竜介）竈神信仰の地域性（高見寛孝）《口絵解説》カマド神を祀る《連載》《八幡宮紹介》武水別神社（長野県千曲市八幡）他 平成30年10月</p>

156号	<p>特集：実朝公神忌八百年</p> <p>《口絵》源 実朝公神忌八百年 《エッセイ》鎌倉と奈良（岡本彰夫）</p> <p>《論文》源実朝と幕府体制の確立—実朝と時代背景—（坂井孝一）実朝と神仏（末木文美士） 実朝の調べと表現—源実朝と王朝和歌と万葉調と—（荒木優也）実朝と実朝をめぐる人びと—御家人を中心に—（高橋典幸） 《口絵》金槐和歌集</p> <p>《論文》『金槐和歌集』を読む—先行歌との関係を中心に—（久保田淳）『金槐和歌集』における百人一首歌（渡部泰明）『金槐和歌集』の魅力（尾崎左永子） 源実朝讃歌（岡野弘彦） 源実朝公略年譜《連載》《八幡宮紹介》八幡神社（静岡県葵区羽鳥）他</p> <p style="text-align: right;">平成31年2月</p>
157号	<p>特集：践祚と即位</p> <p>《口絵》御即位図・御即位式之御図（國學院大學博物館所蔵）《口絵解説》御即位図・御即位式之御図（吉永博彰）《論文》践祚と即位（藤森馨） 即位儀礼における装束（橋本富太郎） 皇位継承における三種の神器—古代における神璽と玉・鏡・剣の意味を中心に—（小林宣彦）近代の即位礼と皇室制度（齊藤智朗） 《小論文》即位礼と礼服（八條忠基）《連載》《八幡宮紹介》古谷館八幡神社（宮城県気仙沼市松崎中瀬）他</p> <p style="text-align: right;">平成31年4月</p>
158号	<p>特集：大嘗祭</p> <p>《口絵》近世の大嘗宮（國學院大學博物館所蔵）《口絵解説》近世の大嘗宮（塩川哲朗）</p> <p>《エッセイ》日本人が育ててきた神仏習合の在り方（狭川普文）《論文》令和の「大嘗祭」をいかに拝するか（佐野和史）古代の大嘗祭（加茂正典）中世の大嘗祭（加瀬直弥）大嘗祭の中絶と復興—荷田在満を絡めて—（古相正美）近現代の大嘗祭（武田秀章）現代社会における大嘗祭（浅山雅司）《連載》《八幡宮紹介》青山八幡宮（静岡県藤枝市八幡）他</p> <p style="text-align: right;">令和元年7月</p>
159号	<p>特集：元号</p> <p>《口絵》新嘗祭 それぞれ 《エッセイ》歴史を照らす（水沢勉）</p> <p>《論文》「令和」改元の画期的な意義（所功）天平二年の「梅花の宴」の特色—元号「令和」を視野に—（菊地義裕）古代日本の改元と祥瑞（小塩慶）年号と難陳—公武関係と宗教的要素を中心として—（水上雅晴）元号制度と年号勘文（久禮旦雄）近現代の「元号」と神道人（河村忠伸）《資料》元号一覧《口絵解説》新嘗祭 それぞれ《連載》《八幡宮紹介》八幡神社 松平東照宮（愛知県豊田市松平町）他</p> <p style="text-align: right;">令和2年2月</p>
160号	<p>特集：水運と信仰</p> <p>《口絵》川絵図・海路図・船絵馬 《エッセイ》天下一の香水（三條西堯水）</p> <p>《特別寄稿》今上陛下と水（高井和大）</p> <p>《論文》『万葉集』に見る古代の航海と信仰（尾崎富義）河川水運と水神信仰—関東内陸部、荒川水系をめぐる—（柳正博）廻船と祈り—近世讃岐廻船の事例から—（織野智子）外来の航海信仰—媽祖信仰を中心に—（藤田明良）海上信仰と船絵馬（昆政明）《連載》《八幡宮紹介》前橋八幡宮（群馬県前橋市本町）他</p> <p style="text-align: right;">令和2年4月号</p>
161号	<p>特集：『日本書紀』撰修千三百年</p> <p>《口絵》『日本書紀』撰修千三百年 《エッセイ》令和のジャポニズム（森谷明子）</p> <p>《論文》『日本書紀』の撰修とその意図（荊木美行）『古事記』『日本書紀』の成立にかんする再検討（笹川尚紀）『日本書紀』の語法と文体（沖森卓也）垂加神道と『日本書紀』（松本丘）『日本書紀』の暦日について（細井浩志）</p> <p>《連載》《八幡宮紹介》八幡山八幡神社（広島県安芸郡坂町）他</p> <p style="text-align: right;">令和2年4月号（令和2年9月発行）</p>
162号	<p>特集：近世地誌Ⅰ—近世地誌とは何か—</p> <p>《口絵》『新編相模国風土記稿』に描かれた寺社</p> <p>《エッセイ》箱根駅伝に憧れ育てられ、そして今を生きる（前田 康弘）</p> <p>《論文》近世地誌の歴史—古風土記・中国地誌・「日本型地誌」から考える—（白井 哲哉）近世の名所記・名所図会—江戸の発展と繁栄を文字と絵に記す—（鈴木 章生）</p>

近世の村方・町方の地誌（工藤 航平）近世都市江戸の成熟と地誌類の刊行（滝口 正哉）
近世地誌に記された芸能—東北・北陸の事例から—（川上 真理）地誌の周辺—採葉記
と案内記—（平野 恵）
《連載》《八幡宮紹介》山中八幡宮（島根県江津市桜江町） 他

令和2年7月号（令和3年6月発行）